

リアホナ

表紙の記事——

偉大な父親になる方法
2ページ

もしも預言者が
あなたのクラスに来たら
26ページ

明るい未来を手にしたいですか
34ページ

学校に行けなかった
カールとユーイ
F14ページ



ISSN 1341-1115

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・F・ウークトドルフ、デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ、ゲアリー・J・コールマン、菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー、リチャード・M・ロムニー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボグ

編集主幹:ビクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・バトラ、リンダ・ステル・クーバー、ラリー・ン・ポーター、ガート、R・バル・ジョンソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・バーラー、ビビアン・ポールセン、サラ・R・ポーター、ジェニファー・ローズ、ドン・L・サー、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テリー、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウェッブ

主任秘書:モニカ・L・ティッキンソン

編集インターン:ブリタニー・ジョーンズ・ビーム、ニコール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・パン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロウ、コレット・ネベカー、オーヌ、ハワード・G・ブラウン、ジュリー・バーデッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ビクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、『リアホナ』注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

『リアホナ』への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:liahona@ldschurch.org

『リアホナ』(モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クロアチア語、セルビア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアン語、タイ語、タガログ語、タミル語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、トピア語、リトニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2006 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

『リアホナ』に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines September 2006.

Japanese. 26989 300

『リアホナ』は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は“Gospel Library”(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

September 2006 no. 9 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——愛してくる父 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 7 もう一度してみよう マリアン・モンソン・パートン
- 8 忘れられない家庭の夕べ
- 12 家族の受け継ぎを伝える 十二使徒定員会 L・トム・ペリー
- 22 旧約聖書からの教訓——とこしえに主に信頼せよ 中央初等協会第一副会長 マーガレット・S・リファース
- 25 家庭訪問メッセージ——一人一人の姉妹に伝え、支える
- 26 主の声を聞くことを学ぶ アロン・L・ウェスト
- 38 ニカラグア——「好ましい実」を渴望する ドン・L・サール
- 44 末日聖徒の声
 - 主は心を見られる
 - ラケル・ペドラサ・デ・プロシオ
 - 刈り入れは遅くとも
 - ライアン・W・ジョーンズ
 - 万分の1の確率
 - フランシス・デービス
- 48 読者からの便り



2 愛してくる父

家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、『リアホナ』を使ってより効果的に福音を教えるために、このページに提案されているアイデアを役立てることができ

「もう一度してみよう」

7ページ——主がわたしたちに悔い改めて、やり直すように勧めている参照聖句を見つけます。悔い改めを前向きにとらえるにはどうすればよいか、筆者の経験を用いて話し合ってください。贖罪しよくざいによってやり直しができるのはなぜかあかしを証してください。

「誘惑や試しに立ち向かう」16ページ——記事で述べられている誘惑を

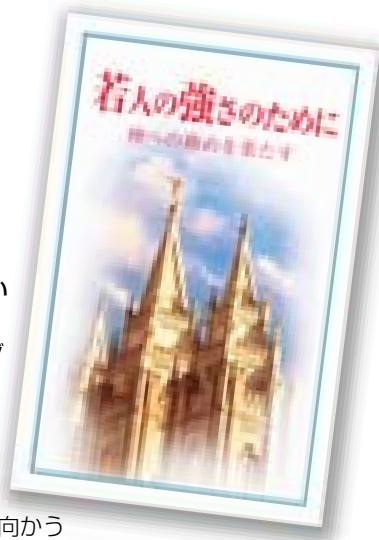
列挙し、日本の末日聖徒の若者たちが、誘惑に対してどのような行動を取ったかを話し合ってください。誘惑について『若人の強さのために』にはどのように書かれているか調べてください。前もって準備すると標準を保つことがどのように容易になるかを証してください。

「とこしえに主に信頼せよ」22ページ——記事の最初の4つの段落から、イザヤとわたしたちの時代を比較してください。主の導きを信頼することで、当時どのような助けがありましたか。また現代にはどのような助けがありますか。記事の続きを調べ、主か



青少年

- 11 ポスター——人気
- 16 誘惑や試しに立ち向かう
アダム・C・オルソン
- 20 リカルドは知っている
R・バル・ジョンソン
- 30 滑落から奇跡へ
ジャネット・トーマス
- 34 輝かしい未来を選びなさい
七十人
ジョン・H・グローバーク
- 37 アイデアリスト——
伝えられるようになる
- 43 御存じでしたか？



16 誘惑や試しに立ち向かう

今月号のどこかに隠れている
CTRリングをさがしながら、
好きな聖句について考えてください。



ら導きを受ける方法を見つけてください。

「**輝かしい未来を選びなさい**」34 ページ——この宣教師の話の前半部分を語り、帰還後何が起きるか、家族に考えるように言います。物語の後半を話し、この宣教師が主を信頼し続けることで、どのように祝福を受けたかを尋ねてください。記事の最初の2段落を読み、次の文を完成してください。「正しいことをするなら、_____。」

「**真理は勝つ**」F2ページ——「恐れることはない。ただ信じなさい」という文を、1文節ずつ別々の紙に書いてください。紙を交ぜ、正しい順番に並べるように、子供たちに言います。それから正しいことを選ぶのに

勇気が必要になる状況を子供たちに尋ねます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の、勇気についての記事の中から、例を見つけてください。テモテへの第二の手紙第1章7-8節の聖句を家に飾ってください。

「**愛の受けつぎ**」F10ページ——先祖伝来の物を見せるか、家族の伝統について話してください。先祖から伝わった物や伝統は、なぜ大切なのでしょう。菊地良彦長老の話を読んで、菊地長老は子供たちに何を残そうとしたかを見つけてください。自分の家族が愛を受け継ぎとして残す方法を話し合ってください。

フレンド

- F2 預言者の声——真理は勝つ 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- F4 分かち合いの時間——
せいぶんからえられる、なぐさめとゆうき
リンダ・マグレビーとエリザベス・リックス
- F6 ウィルフォード・ウッドラフだいかんちょうのしょうがいから
——れいかんをうけるよげんしゃ
- F8 ちいさなみんなのために——エデンのその
マリyam・ジョイス・グリシャム
- F10 小さなお友だちへ——愛の受けつぎ 菊地 良彦
- F12 日曜日ボックス——あなたはえいえんです ジーン・マクマリン
- F13 特別な証人——だれでしょう？
- F14 学校から帰されて
ジェニー・レベッカ・リディング



F14 学校から帰されて

表紙

写真/ウェルデン・C・アンダーセン、写真はイメージです

「フレンド」表紙

「ダビデとゴリアテ」サム・ローラー画。複写は禁じられています

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

祈り	20	聖書	F14
受け継ぎ	12	聖文研究	43, F4, F14
エデンの園	F8	選択の自由	26
教えること	1, 26	ダビデとゴリアテ	F4
学習	26	知恵の言葉	16
家族	2, 12	父親	2
家庭の夕べ	1, 8	定着	38
家庭訪問	25	伝道活動	
神の導き	22, 46	30, 34, 37, 38, 44, 45	
奇跡	30	仲間からの圧力	11, 16
教育	F14	人気	11
悔い改め	7	標準	16
子育て	2, 7	復活	F12
使徒	F13	ホームティーチング	6
従順	34	奉仕	25
初等教会	F4	モルモン書	45
神権	2	優先順位	2, 34
信仰	22, F2	誘惑	16
信頼	22	靈感	22, 47



愛してくれる父

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

何年か前、一人で6人の子供を育てているある父親から苦労話を聞きました。そのような生活は、彼の末の子供がまだおむつをしていたころに始まりました。ある晩、仕事から帰ると、一人で父親と母親両方の役割を果たすことの難しさを痛感し、責任の重さに押しつぶされそうに感じたそうです。ところが、彼の聡明な娘たちの一人で12歳になる子供が、学校で色を塗った石を父親のたんすに置いておき、見てほしいとせがみました。石の平らな部分に、彼女はこう書いたのです。「幸せとは、愛してくれるお父さんがいること。」このきれいな石とそこに書かれた深遠なメッセージは、父親の感じていた重圧を一瞬にして、そして永久に和らげてくれたのです。

何十年前の総大会で、スティーブン・L・リチャーズ第一副管長(1879-1959年)は、ベテランの刑事裁判官の書いた「少年非行を防止する9つの単語」(Nine Words That Can Stop Juvenile Delinquency)というタイトルの記事から引用しました。裁判官が語った9つの単語とは、「父親を家長の地位に戻そう(Put Father back at the head of the family)」です。リチャーズ副管長は、その記事からこう結びました。「ヨーロッパの〔特定の〕国々で少年非行の発生率が減少した最大の要因は、父親を家長という本来あるべき姿に戻した……家庭にお

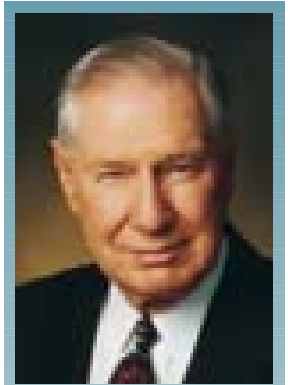
いて、……父親の権威を家族が尊重するようになったことです。」

さらにリチャーズ副管長はこう語りました。「わたしたちの教会では何世代にもわたり、この裁判官が提唱しているとおりのことに努めてきました。つまり、父親を家族の長とすることです。わたしたちは父親がこの気高く、重要な責任にふさわしくなるように全力を傾けてきました。」¹ 教会の基本的な目的は、家族を助けることです。そして、父親がいかに自分の責任を全うできるかが、最も重要なのです。

最近、ある新聞記事を読みました。「政治的には様々な見解を持つ社会学者たちが異口同音に語っていることがある。犯罪行動の裏に潜む重要な要因は父親の不在であり、それは、家庭の収入、教育、あるいは……人種などの要因を上回るといふことである。

そして多くの場合、若人は父親がいなくても特に大きな問題を起こさずに生活を送ることができるが、父親不在の家庭や社会から心に何の影響も受けずに育つケースはほとんどない。」²

父親を一家の長へと戻すことを勧める一方で、母親の重要性を忘れるわけにはいきません。母親であること以上に気高く、誉れ高い、大きな責任は世界のどこにもありません。母親の皆さんも家庭の内外で、さらに力強い影響力を発揮できるよう、わたしは願っています。



父親の皆さんに、
神からの力が授けられ、
愛する子供たち
一人一人に
父親だからこそできる
養いを与えることが
できますように。
そして、この
圧倒されるほどの重責を
全うできるように
願っています。

父親を強める

家庭において父親を強めるために、二つの提案をします。第1に家長である父親を支持し、敬意を表すこと。第2に父親の努力に対して愛と理解と感謝を示すことです。

わたしたちの社会では、男らしさという特質をさげすむ声が聞かれます。これには間違っただけの信念を持つ女性の声、つまり男らしさのイメージを傷つけることで、自分なりに女性らしさを確立できるという声も含まれています。このことは、社会に深刻な影響を及ぼします。なぜなら、息子や娘たちの不安は、適切な父親像が担ってきた役割が十分に果たされなくなったことと強く結びついていると考えられるからです。

父親をないがしろにしたり、子供たちの目に映る父親のイメージを損なったりする行為が、子供の自尊心や安心感に修復不可能な傷をもたらすことを、母親の皆さんには理解してほしいと思います。夫をさげすむのではなく尊重することの方が、限りなく建設的で、満足感をもたらしてくれます。女性は多くの面で男性よりも優れていますが、男らしさや男性像を見下すことで、自分の価値を下げることになってしまいます。

父親に愛と理解を示すに当たっては、父親も不安や疑いを抱くときがあることを心に留めておかなければなりません。父親でも失敗をすることはだれもが承知しています。特に父親自身がそう自覚しています。父親は、得られるすべての助けを必要としています。たいていの場合、家族の愛と支持、理解を求めています。

父親の責任

わたしたちは父親として、時間の使い方に優先順位を設ける必要があります。次のことを忘れてしまっている人たちがいます。「優先順位の第1は自分自身の霊的、肉体的な強さを維持することで、次に家族が来ます。それから教会、そして仕事の順です。そして、それぞれに時間が必要です。」³ 父親は子供たちと一緒に時間を過ごすときには、折に触れて訓戒したりしつけたりできるよう、十分な愛を示すべきです。子

供たちはしつけられることを求め、必要としています。子供たちは何らかの危険に近づくと、心の中でこのように求めているのです。「わたしを止めて。こんなことをさせないで。」

ビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)は、もしもわたしたちが十分にしつけなければ、わたしたちが望まない方法で社会が子供をしつけることになるかと語りました。⁴ 賢明なしつけは、永遠の愛を堅固にします。そして、永遠の愛が堅固になると、子供たちの生活に安心感と安定感がもたらされます。

2000年10月にゴードン・B・ヒンクレー大管長は、神権者が心に銘記すべき説教の中で、父親の役割についてこのように語りました。「これはわたしが大変深刻に考えている問題であり、深く懸念している事柄です。軽く考えていただきたくないのです。皆さんが持っている最も貴重な財産に関する問題です。皆さんの幸福、皆さんが誇りに思ったり悲しんだりする事柄という面から考えると、子供たちの行く末がどうなるかということほど、皆さんに深い影響を及ぼすものは、何もありません。」⁵ そして続けて、子供たちが誘惑に打ち勝つことができるように助け、彼らの言葉に耳を傾け、忍耐強くあり、祈りの気持ちを忘れず、彼らに主の道を教えるべきである、と父親に勧告を与えました。

アメリカ軍の将軍ダグラス・マッカーサーは、父親の高貴な地位についてこう述べています。「わたしの職業は軍人であり、そのことに誇りを持っています。しかし、それとは比較にならないほど誇りに思うのは、父親であるということです。軍人は、何かを築くために破壊しますが、父親は築くことに努め、決して

破壊はしません。軍人は死の危険と隣り合わせであるのに対し、父親は創造の業に携わり、生命をもたらします。また、死を恐れずに戦う者たちは強力ですが、生きるために闘う者たちはもっと力強いのです。わたしがこの世を去ったとき、戦う姿ではなく、『天にいますわれらの父よ』と家で毎日当たり前のように一緒に祈ったことを息子が思い出してくれるよう願っています。」⁶

この教会において、夫と父親、そして家族の一人一人は、



この教会において、
夫と父親、そして
家族の一人一人は、
父親が生来持っている
知性や特質を
はるかに超える力と影響を
祝福として
天から授けられます。
その力と影響力とは、
神の神権のことです。



父親が生来持っている知性や特質をはるかに超える力と影響を祝福として天から授けられることをよく覚えておきましょう。その力と影響力とは、ふさわしい男性あるいは12歳以上のふさわしい少年が持つことのできる、神の神権のことです。

教会と実業界の両方で指導的な立場に立つ、ある著名な人物は、現在は健康体ですが、生まれたときは仮死状態でした。父親は神権を行使し、もしも彼の第一子が生命を取り留めたら、息子に正しい模範を示し、教えを伝えるために全精力を注ぎ込むことを主に約束しました。数分後、生まれたばかりのこの息子は呼吸を始め、今日まで健康な生活を送っています。

結婚と家族関係がこの世を超え、永遠に続くことができるのも神権の力によるものです。この教会の誠実な女性たちは、そのような義にかなった影響力が家庭に満ちあふれることを願っています。

喜びという受け継ぎ

あるステーキ大会で一人の上品な女性が、神殿に参入したときのすばらしい経験を、うれしそうに話してくれました。彼女は夫と、一人を除くすべての子供たちと、夫婦また家族として永遠に結び固められたのです。神権の聖任を受けて間もない彼女の夫は、大会出席者の中で前から数列目の席に座っていました。しばらくの間、彼女はわたしたち聴衆のことを忘れ、夫に向かって話しているかのように見えました。涙を流しながら聞き入っている1,000人を超える聴衆を前にして彼女は説教壇に立ち、スピーカーを通してこう語りかけました。「ジョン、わたしと子供たちにとって、あなたがどれほど大切な存在かということをどう伝えればよいのか分かりません。あなたが神権を受けるまで、わたしたちは最大の永遠の祝福にあずかることができませんでした。でも、今はそれを頂いています。わたしたちはあなたをほんとうに愛しています。そして、あなたがもたら

ゴードン・B・
ヒンクレー
大管長は

父親に、忍耐強くあり、
祈りの気持ちを
忘れないようにと
勧めました。

また、子供たちが
誘惑に打ち勝てるように
助け、彼らに耳を傾け、
主の道を
教えるべきであると
勧告しました。

してくれた祝福に、心から感謝しています。」

皆さんの中には、子供が穴にはまってしまった話を覚えている人もいでしょう。救出するためにはさらに体の小さな子供をその穴の中に送るしかなかったという話です。一人の少年が呼ばれ、穴にはまった子供を救い出すために穴を降りてくれるかと尋ねられました。その子はこう答えました。「穴の中に入るのは怖いけど、お父さんがロープを握っていてくれるなら行くよ。」

十二使徒定員会のリチャード・L・エバンズ長老(1906-1971年)は、このような信仰を持つすべての父親に次のような言葉で適切な考え方を示しました。「最初に父親は、汚れない高潔な子供たちに名前と受け継ぎを与えます。そして、自分が手にすることのなかったものを子供たちに与えようと、……長時間、懸命に自分の仕事をこなします。父親は、子供たちと話し、子供たちを励まし、抱き締めます。子供たちの失敗に理解を示しますが、だからといって見逃したりはしません。必要ときには厳しくしかり、その後、それ以上の愛を示します。強く、説得力があり、柔和で穏やかでもあります。」⁷

あらゆる家族関係において、「イエス・キリストならどうされるだろうか」と問いかけるのは、状況にかかわらず適切なことです。マリオン・G・ロムニー第一副管長(1897-1988年)は聖典をひもといて、この質問に次のように答え、証しています。「聖ヨハネが記録した福音書の中に、わたしは明快で確かな答えを見つけました。それは、イエスは常に父の御心みこころを行われる、ということです。……『わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしている』とおっしゃっていることから、それが分かります〔ヨハネ8:29〕」⁸

子供である皆さんに、聞く耳と理解する心を神が祝福してくださいますように。母親の皆さんに、尽きることのない愛と、皆さんの子供たちの父親を助ける力とを神が祝福してくださいますように。そして父親の皆さんに、神から力が授けられ、愛する子供たち一人一人に父親だからこそできる養いを与えることができますように。そして、この圧倒されるほどの重責を全うできるように願っています。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子みこを信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16) ■

注

1. "The Father and the Home," *Improvement Era*, 1958年6月号, 410; サミュエル・S・レイボビッツ, "Nine Words That Can Stop Juvenile Delinquency," *Reader's Digest*, 1958年3月号, 106からの引用
2. ウィリアム・ラズベリー, "Crime Rates Rise from Fatherless Communities," *Deseret Morning News*, 2005年10月10日付, セクションA, 11
3. *Bishop's Training Course and Self-Help Guide*(1972年), セクション2, 7
4. Conference Report, 1955年4月, 27参照
5. 「あなたの子らの平安は深い」『リアホナ』2001年1月号, 61
6. エマーソン・ロイ・ウエスト編, *Vital Quotations*(1968年), 118
7. *Vital Quotations*, 120
8. "What Would Jesus Do?" *New Era*, 1972年9月号, 4

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。(このメッセージを紹介するときには、父親のいない家族に配慮するようにしてください。)

1. 大管長会メッセージの中から、あなたの担当家族にとって最も適切だと思う原則を選び出す。それらの原則を教えている箇所を担当家族のだれかに読んでもらう。これらの原則に関する、自分の証と経験を話す。

2. 担当家族が父親に愛と感謝を示すことができるような方法を計画する。一つのアイデアとして、「わたしはお父さんを愛しています。なぜなら_____」と書いた紙を家族の人数分用意する。一人一人に配って空欄を埋めてもらい、なぜそのように書いたのかを尋ねる。メッセージの第1段落を読み、その紙を家族から父親に渡してもらう。

3. メッセージの中で提案された父親の優先順位を書き出し、なぜそれぞれが重要なのかを話し合う。メッセージにある例や個人の経験を用いて、父親がこれら4つの優先順位を果たせるような方法について話し合う。

4. メッセージの最後の段落を読み、子供たちがもっと注意深く父親の勧告に従うためにどうしたらよいかについて話し合う。父親(あるいは祖父)の助けによって、家族が試練や難題を乗り越えた経験について話し合う。自分の人生において父親がどのように助けてくれたかを紹介する。

もう一度 してみよう

マリアン・モンソン・バートン

息子のネイサンが2歳半になると、しつけの一環として、家族の決まりを破ったときに一人だけその場から数分間離すという方法を時々取るようにしました。けれども、一人になった後で見せる、息子の沈んだ表情が気がかりでした。悲しそうで、がっかりしていることが多かったからです。そこで、どうすればこの時間に息子をもっと前向きになれるかについて祈ると、「もう一度してみよう」という言葉を使うように強く感じました。

息子をまた、その場を一人離れさせるときがありました。今度は、その時間が終わるときに、息子の手を取って元気に話しかけました。「もう一度してみようね。」すると急に息子の態度が変わりました。それまでの否定的な言動に代わって、やり直そうという気持ちになったのです。この一言がもたらした変化には、目を見張るものがありました。一人でいる時間が終わるときに、罰を受けたと思うのではなく、もっと良い選択をしようという意欲に満ちてきたのです。

間もなくわたしは、この言葉を様々な場面で使うようになりました。言葉をいろいろと言い換えながらネイサンに声をかけたのです。「もう一度してみようね。今度はもう少し上手にできるわよ。今度は優しくできるわよ。今度は親切にできるわよ。」

この言い方は息子にとって強力な動機づけになりました。一人になっている最中に「ママ、もう

一度する」と言ってくるのが多くなったのです。

この言葉が息子に及ぼした劇的な効果について深く考え、「もう一度してみよう」という言葉の持つ力の意味を熟考しました。すると分かったことがあります。すべての人の御父である神は、わたしたちが自

分の犯した過ちのために希望を失ってしまうことは望んでいません。むしろ、心から悔い改めて、明るい未来に心を向けて、日々向上するように招いておられるのです。

そして悔い改めができるように、神は愛する御子の命を進んでささげ、次のように約束されました。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ1:18)

神は悔い改める子供たちを憐れんでくださいます。もっと良くなりたいという息子の決意を見る度に、愛に満ちた天の御父への感謝で心が満たされます。また、わたしは救い主に対しても深く感謝しています。わたしたちが皆、「もう一度してみよう」と言えるのは、主の無限の贖罪しよくざいのおかげなのです。■

忘れられな 家庭の夕べ



世界中の教会員が証する^{あかし}ように、特別な家庭の夕べの思い出は
わたしたちを励まし、導き、さらには一生心に残ります。

テキサス州アーリントンステーキのフリオ・セザール・メルロス兄弟は次のようにつづっています。「わたしたちきょうだいが子供だったころを思い出します。教会に入ったばかりで、家計は苦しかったのですが、わたしたちには福音に対する信仰がありました。父は聖文を読むことで模範を示してくれました。家庭の夕べは父にとって、自分が学んでいることをわたしたちに教えるいい機会でした。

父がある家庭の夕べで教えてくれたレッスンに強い印象を受けました。それは選択の自由についてのレッスンでした。今でも父の言葉を覚えています。『おまえたちに一生覚えておいてほしいことがある。もし知恵の言葉や純潔の律法、ほかの神の戒めを破るように誘惑されたら、自分はだれに対して罪を犯すのか考えてみてほしい。罪を犯すのは神に対してなのか、教会に対してか、両親に対してか、家族に対してか、あるいは自分自身に対してなのか。おまえたちに伝えたのは、その罪によっていちばん大きな害を被るのは自分自

身だということだ。』

成長するにつれ、両親が警告したような深刻な試しに何度も遭いました。そのようなとき、あの晩、父が与えてくれた助言を思い出すようにしました。父の教えは、それを聞いてから25年たった今も、わたしを守り強めてくれています。今はわたしの子供たちが同じ助言をわたしから受けています。」

一生を変えた家庭の夕べ

ブラジル・サンパウロ・サンミゲルパウリスタステーキのエデバニル・レオポルディーノ兄弟は、自分の一生を変えた、ある家庭の夕べのことを今でも覚えています。エデバニルは当時まだ16歳で、教会員ではありませんでした。友達のリアンドロを地元のダンスパーティーに誘おうと彼の家に立ち寄ったときのことで。すると、逆にリアンドロの家の家庭の夕べに招待されました。家庭の夕べについてまったく知識のなかったエデバニルは、しつこく招待に応じることにしました。

その夜のことをエデバニルはこう書いています。「すばらしかったです！」レアンドロの兄が伝道に出るので、その日の家庭の夕べは彼の送別会でした。エデバニルはそのときのことを回想してこう言います。「主の御霊がわたしの心に触れ、わたしは心の中がすごく温かくなり、どうしたらよいか分からなくなりました。そして自分はもう独りではないと感じるほどの大きな喜びを得ました。

その家庭の夕べの後、わたしは宣教師から福音を学び始め、間もなくバプテスマを受けました。翌年、わたしは専任宣教師としてブラジル・ポルトアレグレ伝道部〔後にブラジル・サンタマリア伝道部〕に召されました。レアンドロと一緒に参加したあの家庭の夕べからわずか8年後の今、わたしは自分の家族と家庭の夕べを開いています。』

人込みの中で感じた平安

思い出に残る家庭の夕べは必ずしも家で行われるとは限りません。ウクライナ・ドネツク地方部のリュボフ・サリモワ姉妹は海辺で休暇を過ごしていたときに経験した特別な家庭の夕べを紹介してくれました。近くに住んでいた姉に、午後8時からの家庭の夕べに誘われていました。「でも非常に驚いたことに、約束の時間のずっと前に姉と海辺で落ち合うことになったのです。『家でやると都合が悪いのよ』と姉は説明しました。ほほえもうとした姉の笑みはぎこちなく、引きつっているように見えました。わたしは、姉が泣きださないように必死で我慢しているのを察しました。姉は家庭で問題を抱えていました。海辺では、あちらこちらで人が歩いたり、座ったり、肌を焼いたり、笑ったりしていたので、『ここで家庭の夕べを開こう』と姉が突拍子もなく言ったときは驚いてしまいましたが、わたしは同意しました。

わたしたちは向かい合わせにタオルを敷いて、腰を下ろしました。そして二人で頭を垂れ

て祈りました。姉は総大会の説教が掲載されている、2002年7月号の『リアホナ』を持っていて、その中からゴードン・B・ヒンクレー大管長の説教を読み始めました。大管長の言葉の一つ一つが、家族とどのように接するべきかを説明しているように思えました。生ける預言者の言葉を読んでいくと、わたしたちに豊かに降り注がれた聖霊の助けを受けて、姉の心が落ち着いていくのが分かりました。わたしたちは、自分が神に愛されている娘であって、善を求めて闘うためにさらに前進できると感じました。わたしたちの霊は平安に包まれました。』

この幸せを求めて

ペルー・リマ・スルコステーキのカルラ・サンチバニエス・カストロ姉妹はこう書いています。「ある家庭の夕べのことを特によく覚えています。わたしたち4人の子供は、パパが教えるレッスンをとても熱心に聞いて、楽しいゲームをしました。楽しかっただけでなく、救い主についても学びました。その夜のことでいちばん記憶に残っているのは、わたしたち子供と時間を過ごすときの、両親の非常にうれしそうな様子でした。あれから、あの夜の喜びを何度も思い返してきました。

現在、愛する夫と自分たちの家庭の夕べを開き、両親が味わった喜びを経験する機会にあずかっています。いつか我が家の子供たちも、あの晩わたしが感じたのと同じ愛とぬくもり、守りと安堵を感じてくれたらと思っています。』

8ページ——

家庭の夕べに集う
フィリピン・マニラの
ベラスコ家族。

9ページ——

家庭の夕べで
ゲームを楽しむ
チリ・サンチアゴの
バルド家族。



一人きりの家庭の夕べ

フランス・ナンシーステークのベレンジュール・キャビア姉妹は次のように書いています。「数週間前、ステーキ副会長と面接をしているときに、定期的に家庭の夕べをするように言われました。わたしは独身なので家庭の夕べは必要ないと思っていましたが、試しにやってみようと思いました。翌週、幾分疑問を抱きながらも、その決心を実行に移すことにしました。祈りで始め、賛美歌を数曲歌いました。その瞬間から御霊をととても強く感じるようになりました。次に、聖書からキリストの生涯に関する聖句を読みました。感じたことを書き留め、主の模範に従うことを決意しました。最後に賛美歌を何曲か歌いましたが、霊が鼓舞されるのを感じました。45分間の家庭の夕べでしたが、その間、わたしは天国の一部を感じ取ることができたのです！」

6歳児に靈感を

多くの家族が直面する問題は、どうしたら家庭の夕べで小さな子供の心をつかみ、靈感を感じさせることができるかということです。ニューヨーク州シラキュースステーキのクリスティーン・カーター姉妹はこう書いています。「わたしは最近、自分自身のエンゲージメントを受けるために神殿に参入しました。そこで、神殿の大切さについて家庭の夕べで採り上げた



家庭の夕べの 時間を取りましょう

「子供たちを周りに集めなさい。彼らを教え、導き、守りなさい。家庭に強さと一致がこれほど必要な時代はかつてありませんでした。」

大管長

ハロルド・B・リー(1899-1973年)

『教会指導者に従いなさい』

『聖徒の道』1973年12月号, 562参照

いと思いました。よく準備をしたものの、6歳の息子のタイラーが話に集中せず、レッスンを妨害してばかりいました。わたしはがっかりして、レッスンを中止しようかと思い始めました。

でも御霊に促されて、わたしはタイラーの目をのぞき込んで尋ねました。『神殿に行くのが何よりも大切なことだって知っている?』その言葉の効果は信じられないものでした。タイラーは落ち着きを取り戻し、神殿について学

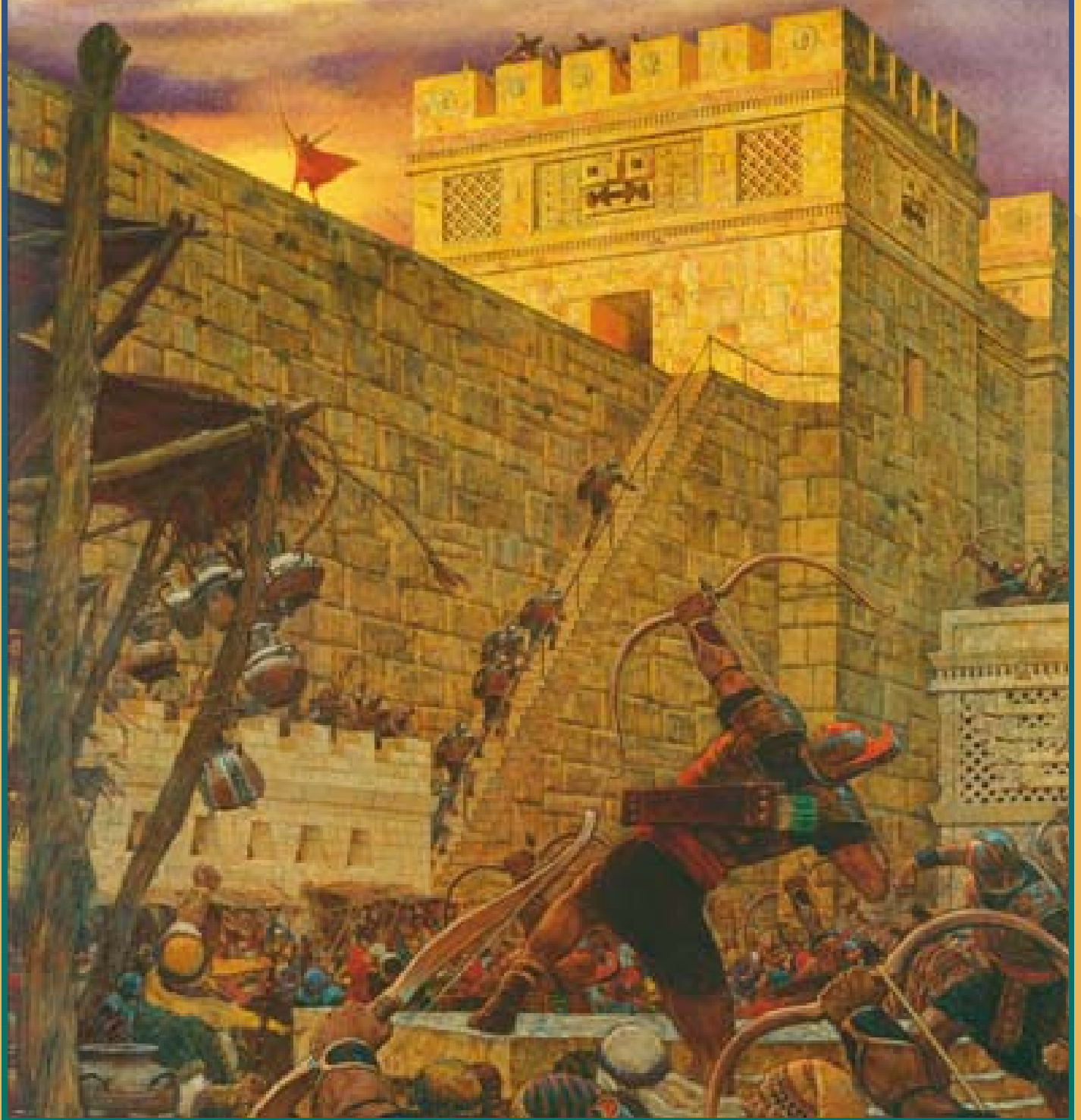
ぶことに興味を抱き始めました。わたしたちは神殿の写真を見て感動し、イエス・キリストがわたしたちのために用意してくださっている家はどんなものなのかと想像してみました。神殿のパズルと一緒に組み立てましたが、あまりにも楽しかったのもう一度やりました。それから『神殿に行きたいな』を歌いました。その後、タイラーは廊下に様々な神殿の写真を飾りました。また、廊下の明かりのスイッチに神殿の形をしたカバーを付けようとまで言い出して、自分でソルトレーク神殿の絵を描きました。今では廊下の明かりをつける度に、神殿が主のもとに帰るわたしたちの道を照らしてくれることを思い出します。

レッスンのときに御霊の導きがあったこと、そして息子に神殿の大切さを教えるのをあきらめなかったことにとっても感謝しています。」■



人 気

皆から好かれることってそんなに大切ですか？
周りの人が全員間違っていることだってあるんですよ。
(ヒラマン13:2-4; 16:2参照)



家族の受け継ぎを 伝える



十二使徒定員会
L・トム・ペリー

人生で
見いだすことのできる
嵐の最大の避け所は、
家族とのすばらしい、
親密な関係です。

2002年の8月の初め、わたしは人生で大きな節目を迎えました。80歳の誕生日を迎え、中年期に別れを告げて高齢者の仲間入りをしたのです。それを記念して、子供や孫を、故郷のユタ州ローガンへ連れて行き、生まれてこのかたわたしがその町からどのような影響を受けてきたかを伝えることにしました。

ローガンには、家族に見せたい場所が9か所ありました。それぞれの場所に対して聖句を一つ選び、その場所がわたしの人生にとってどのように大切であるかをその聖句を使って、教えました。

1. ローガン高校で学んだ教訓——潜在能力を最大限に生かす

「しかし、ある人々については、わたしは心から喜んではいない。彼らは口を開こうとせず、人を恐れて、わたしが与えたタラントを隠しているからである。」(教義と聖約60:2)

高校時代のわたしはとても恥ずかしがり屋で、自分の才能を伸ばし、磨き上げる機会を有効に活用しませんでした。挑戦することを恐れていたのです。そこで、わたしは家族に、潜在能力を最大限に生かすように教えたいと思いました。挑戦することを恐れてはなりません。自信を持ちましょう。

何でも始めから成功するわけではありませんが、努力を続ければ自信が得られ、新しい才能がはぐくまれます。

2. ローガン・タバナクルで学んだ教訓——福音における奉仕の喜び

「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」(モーサヤ2:17)

わたしの父はローガン・キャッシュステークの会長会の一員として約20年間奉仕しました。ですから、昔ステーキ大会をよく開いたタバナクルに立ち寄り、次の教訓を伝えたいと思いました。すなわち、教会で奉仕することにより、大きな喜びを得ることができ、また、人と上手に交わる能力が確実に伸びるという教訓です。わたしたちは、天の御父の王国を築くという純粋な動機で、教会の奉仕を行います。主は、ささげた時間や努力よりも多くの祝福を与えてくださり、さらに奉仕できるように、才能や能力を加えてくださいます。主から頂いた分を全部返すことなど不可能なことです。

3. 父の法律事務所で学んだ教訓——人格、誠実さを築く

「金銭を愛することは、すべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、多くの苦痛をもって自分自身





ユタ州立大学のキャンパスで子供や孫たちに話すペリー長老。

ペリー長老は、ユタ州立大学などユタ州ローガンの9つの場所を家族で訪れ、聖句を交えながら自らの人生経験を語った。左ページ——若いころのペリー長老と3人の子供たち(左から、バーバラ、リンダ・ゲイ、リー)。

を刺しとおした。

しかし、神の人よ。あなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。

信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。』(1テモテ6:10-12)

わたしは家族に、自分が銀行家になるためにどのように準備したかを話しました。父は銀行の法務を担当していました。わたしは新聞配達で得たお金をため、ファーストナショナル銀行の株を10株買いました。父はわたしに、株主総会に出席し、10株分の投票をするように勧めました。実は、父はわたしが銀行業界に興味を持つようになればと考えていたのです。卒業後、ある人から、銀行よりもはるかに有利な仕事

を紹介されました。わたしは初め、その仕事を数年してから銀行家の道を歩もうと考えました。しかし結局、銀行家にはなりませんでした。わたしが孫たちに教えたのは、大学の専攻を選ぶことも大切だけれど、それよりも、誠実さや倫理観を養い、学ぶ習慣を身に付け、信仰、自信、勤勉という人格を築くことの方が大切だということです。

4. 出生地で学んだ教訓——わたしたちの受け継ぎの価値

「わたしは、……わたしたちの最初の先祖の名を、あなたたちに付けた。わたしがこうしたのは、あなたたちが自分の名を思うときに先祖を思い起こせるように、そして先祖を思い起こすときに先祖の行いを思い起こせるように、そして先祖の行いを思い起こすときに、先祖の行いが善かったことがど



上, 上段——ペリー長老の両親,
L・トム・ペリーとノラ・ソヌ・ペリー。
少年時代のペリー長老。

中段——青年時代のペリー長老(後列)と家族。ローガン高校。

下段——おいを抱くペリー長老。

1937年ソヌ家の集まりにて。

右ページ——ユタ州ローガン神殿。

子供時代の家から出て来るペリー長老。

のように言い伝えられ、書き記されているか分かるようにするためである。」(ヒラマン5:6)

わたしは父の名を取って名付けられました。わたしは父を尊敬していました。そして父が築き上げてきた価値観と同じ価値観を持ちたいと思っていました。先祖からの受け継ぎにより、現在から永遠にわたる価値観を得ることができるのです。

5. かつての我が家で学んだ教訓——善い両親から得た祝福

「わたしニーファイは善い両親から生まれたので、父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた。」(1ニーファイ1:1)

わたしは家族に、人生でどれだけ成功を収めても、それは最初にすばらしいスタートを切らせてくれた両親のおかげだということを教えようと思いました。わたしの父は働き者で、家族のために必要なものをそろえ、奉仕、名誉、誠実さの立派な模範でした。父は家族を愛し、忙しい生活の中で家族のために時間を取ってくれました。

母はいつもそばにいて、わたしたちを教え、励ましてくれました。すばらしい主婦であり、注意深く家事を行い、家計を賢く管理し、料理がとても上手でした。わたしは両親をととても尊敬し、愛しています。

6. 牛の牧場で学んだ教訓——人生で起きる変化を受け入れる

「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約50:24)

わたしたちは宿泊施設にチェックインしました。チェックインの後、わたしは家族にこう言いました。「今夜みんなが寝るのは、昔我が家の牛の牧草地だった所だ。」その宿泊施設は、昔の牧場に建てられていたのです。時代は何と変わってしまったことでしょう。わたしは、自分たちで土を耕し、種を植え、畑の手入れをし、水を引き、収穫する時代に育ったことをいつまでも感謝することでしょう。このような労働は、わたしたちの当時の生活には不可欠なものでした。

未来の世代は、わたしたちが受けた同じ祝福を享受する機会がありません。わたしたちは激しく移り変わる世の中に生きています。ですから何とかして、基本となる普遍的な価値観を持ちつつ、さらに大きなチャンスにつながる新たな知識を受け入れる方法を見つけなければなりません。

7. アイスcream店で学んだ教訓——伝統という価値

「ここでわたしたちの間にある交わりが、そこでもわたしたちの間にある。ただし、その交わりには、わたしたちが今享受していない永遠の栄光が伴う。」(教義と聖約130:2)

ローガンを訪れたときには必ずアイスcreamを食べるこ

とがわたしの家族の伝統です。さらに重要な伝統には、教会の活動、教会の奉仕、家族への忠誠心などがあります。地上で家族が築く特別な伝統は永続します。記憶から決して消えさせることのない伝統、永遠に続く伝統を築きましょう。

8. ユタ州立大学で学んだ教訓——時間を取り、幸福で実りあるコートシップ(男女が結婚を前提につきあうこと)を行うことの大切さ

「だれでも結婚を禁じる者は、神から聖任されていない。結婚は人のために神によって定められているからである。」(教義と聖約49:15)

わたしはほとんどいつもユタ州立大学内でコートシップの関係をはぐくみました。ダンスパーティー、野球観戦、キャンパス内を散歩して図書館に行く、図書館で学習する、インスティテュートに出席する、授業の合間に廊下で待ち合わせる、キャンパス内でいつもとは違う散歩をするなど、いつも、互いをよく知り合い、より良い関係を築き、楽しむ時間でした。当時の生活で最も大切な時間でした。皆さんもコートシップをするようになったら、皆さんの生活はすべてコートシップから影響を受けるようになるでしょう。コートシップを、貴重で特別なものとしてください。

9. ローガン神殿で学んだ教訓——神殿の大切さ

「日の栄えの栄光には、三つの天、すなわち三つの階級がある。その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位(すなわち、結婚の新しくかつ永遠の聖約)に入らなければならない。そうしなければ、その人はそれを得ることができない。」(教義と聖約131:1-3)

わたしたちは聖なる神殿を生活の中心にするべきです。



神殿に参入するふさわしさを常に保つべきです。主の宮で主と交わす聖約にふさわしく生活するなら、主は文字どおり約束された祝福を与える義務を負われます。主と交わす聖約に忠実であるなら、主はその約束を成就されるのです。

わたしたちはその夜、この旅行の最終目的地である旧ローガン第9ワードの建物に着きました。そこの1室を予約して、家族が集まれるようにしておきました。皆で、わたしの今までの人生を振り返り、祖父母や両親、そしてわたしの少年時代の写真を見ました。それから、結婚式の写真、子供の祝福の写真を見ました。そして、家族の思い出の写真で作ったコラージュを見ました。

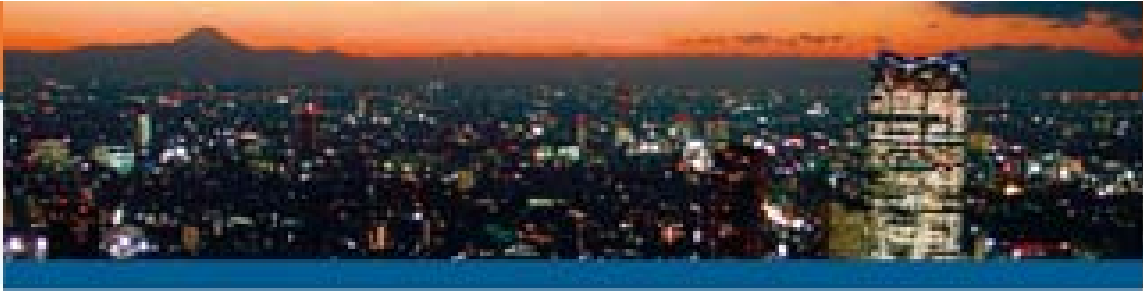
日曜日の朝、第9ワードの集会に出席しました。その建物は、父が監督のときに、父の指導の下で建設されたものです。父は18年間監督を務めました。その朝、わたしは自分の人生における福音の祝福について証を述べる機会がありました。

それからソルトレーク・シティーの家まで車で移動しました。妻はおいしい誕生日ディナーを用意しておいてくれましたが、食べる前に、今回の旅行で何を学んだか家族に質問しました。そして、イエス・キリストの福音の神性について再び証を述べました。

わたしは、人生で見いだすことのできる嵐の最大の避け所は、家族とのすばらしい、親密な関係であると、心から確信しています。

皆さんにわたしの証を述べます。イエス・キリストの福音は真実です。福音は生涯を通じて皆さんをつまずかせることはありません。福音は人に救いをもたらす唯一の希望であり、この世の旅路で遭遇する嵐からの唯一の避け所です。神が常に皆さんを祝福し、皆さんがさらに主の方法を学び、主の律法に従う望みを強めることができますように。■

2002年8月20日、プリガム・ヤング大学教育週間におけるデイボーションより抜粋。



誘惑や試しに 立ち向かう

激しい誘惑にどのように対処するかについて、
東京の青少年が語りました。

アダム・C・オルソン

教会機関誌

ある放課後、北原由梨弥姉妹は、友人たちから新しい漫画を見せてあげると言われました。ローレルの由梨弥姉妹には、すぐに、その漫画がとんでもないものだと分かりました。ポルノ漫画だったのです。

同じころ、マイアメイドの西條順子姉妹は、友人と過ごしていました。すると、その一人がたばこに火をつけ、差し出しました。

その少し後に、渡部翔兄弟の学校で、何人かの生徒がほかの生徒に薬物を売って検挙されました。

幸いなことに、由梨弥姉妹は漫画を手にしませんでした。順子姉妹はたばこを断りました。そして祭司の翔兄弟は、慎重に友人を選ぶようにしています。

教会は日本で発展していますが、青少年は世の誘惑に毎日直面しなければなりません。これは、わたしたちがこの地上に来て遭う試しの一部です。問題は、その試しに立ち向かえるかどうかです。もし今立ち向かえていないのなら、どうしたら立ち向かえるでしょうか。

生活の中の誘惑

日々直面している試しについて話し合うために、幾つかのステークの青少年が集まりました。彼らの話によると、東京では知恵の言葉を破るように誘惑されるのは当たり前のことです。

集まった青少年の数人は、10代になってすぐにたばこの誘惑に直面しました。それ以外の青少年は、今のところ幸運にもそのような誘惑に遭っていません。だれもが同じ誘惑に遭うわけではありません。しかし、東京に住む10代の若者にとって、たばこはよくある落とし穴です。

「日本では、たばこを買うことがとても簡単です。買わない方が難しいと思う人もいます。」翔兄弟の弟で執事の渡部光兄弟は、そう語ります。

アルコールも、早い時期から多くの青少年が直面する問題です。

由梨弥姉妹は次のように述べています。「学校の行事が終わると、生徒はみんなどこかへ行って打ち上げをします。時々、友人から一緒に行こうと誘われます。お酒を飲みに行こうと誘われるわけではありませんが、10代の子が打ち上げに行くということはお酒を飲みに行くという意味です。みんな飲酒が悪いことだと思いません。」由梨弥姉妹の言葉を聞いて、ほかの青少年たちもうなずきます。似たような状況に直面したことがあるのです。

この10代の青少年たちは、ポルノグラフィーや不道德な行為が同級生の間で広がっている点についても同意見です。

ローレルであり、順子姉妹の姉である西條慶子姉妹はこのように告げます。「音楽もひどくなっています。歌詞がほんとうに下品です。」

世界各地に住む末日聖徒の青少年は皆、同じような誘惑や試しに直面しています。彼らはどのように対処しているのでしょうか。皆、福音があれば、どのような試しにも打ち勝つだけの強さが得られるということを経験しているところなのです。



きたはら ゆりや
北原 由梨弥 姉妹



わたなべ しょう
渡部 翔 兄弟



さいじょう じゅんこ
西條 順子 姉妹



きたはら ゆうや
北原 由也 兄弟



さいじょう けいこ
西條 慶子姉妹

強さを見いだす

青少年は、毎日直面する誘惑に打ち勝つには、聖霊の導きが不可欠であると口をそろえて言います。

由梨弥姉妹の弟で、祭司である北原由也兄弟はこう言います。「自分の力だけでなく、主に頼ることこそが力になっています。主に近づけば、誘惑を遠ざけ、打ち勝つことができます。」

貴重な教訓です。由梨弥姉妹は次のように語ります。「御霊に近づく努力をしなければ、教会外の多くの青少年がしているように、たばこを吸ったり、不道徳なものを見たり、もっとひどいことをしたりするようになると思います。」

これはモルモン書で繰り返し教えられている教訓です。主の御霊がないと、ニーファイ人は「同胞のレーマン人のように弱くなってしまった……。」(ヒラマン4:24。モーサヤ1:13;モルモン2:26も参照)

光兄弟はこのように言います。「御霊を感じると、誘惑が遠のいていく感じがします。その力は御霊がくれます。」

由也兄弟は毎朝晩の祈りが御霊を招くと言います。由梨弥姉妹は毎日聖文を研究することによって聖霊を近くに感じると言います。由也兄弟の双子の弟の由己兄弟は青少年の活動やセミナーが助けになると言いました。

そして、順子姉妹は、教会や家庭の夕べから、御霊を感じる

あなたの模範は人を助けます



「友である愛する若人の皆さんを神が祝福してくださいますように。皆さんはこれまでで最もすばらしい世代です。福音をよりよく知っています。自分の義務をより忠実に果たしています。出遭う誘惑に立ち向かう、より強い力を持っています。自分の標準に従って生活してください。主の導きと守りを祈り求めてください。主は皆さんを決して一人にはされず、慰め、支えてくださるでしょう。祝福し、強め、皆さんの報いを甘く美しいものとしてくださるでしょう。そして皆さんは、人が皆さんの模範に引きつけられ、その強さから勇気を得ることに気づくでしょう。」

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

「国民の旗、世の光」

「リアホナ」2003年11月号, 84

だけでなく、誘惑に打ち勝つ方法を学んできたと言います。

また、神殿に参入することも大きいと、どの青少年も言います。翔兄弟は次のように述べています。「ぼくは主の神殿に来ると、特別な力を感じます。」翔兄弟は、神殿に定期的に参入すると、誘惑に立ち向かう強さが増すと言います。

過去数年間、翔兄弟と光兄弟は死者のためのバプテスマを行うために毎週木曜日に神殿に参入するようにしてきました。慶子姉妹、順子姉妹、由梨弥姉妹とその弟たちも、毎週金曜日に参入するように努力しています。

慶子姉妹は次のように語ります。「神殿に来ることで力を得ています。」

若人の強さのために

話し合いの途中で、だれかが小冊子『若人の強さのために』について触れると、半数の青少年が小型版の『若人の強さのために』を取り出しました。

由也兄弟は次のように言います。「これはほ

強さのために
の務めを果たす

くたちのために書かれています。分かりやすく、実行しやすいです。この冊子が教えている原則に従えば、誘惑から守られます。」

ほかの青少年も賛同します。ほとんどの青少年は冊子を定期的に読むようにしています。順子姉妹はこう語ります。「若い女性のクラスで、毎週のように『若人の強さのために』の中から読んでいます。」

光兄弟は『若人の強さのために』が誘惑に打ち勝つ助けになると言います。光兄弟によれば、教会の指導者は「誘惑に遭ったら、聖句を思い出すように勧めます。でも、聖典を持ち歩けないこともあります。『若人の強さのために』の小型版はいつも持っていられるので、助けになっています。」

話し合いに参加した多くの青少年が、『若人の強さのために』のおかげで、福音を生活に当てはめる方法を理解し、福音に添った選択ができるようになったと言っています。

由己兄弟は次のように述べています。「福音とは、何が正しいかを知るだけのことではありません。正しいことを実践することです。『若人の強さのために』を読んで、何をすればよいのが分かりました。『若人の強さのために』は、福音を生活に当てはめる方法を教えてくれます。」

翔兄弟はこう述べます。『『若人の強さのために』が発行される前にも、指導者から教会の標準について聞きました。でも、全部を覚えることはできません。『若人の強さのために』は、とても分かりやすいです。聖文をどのように自分に当てはめればよいかを教えてくれます。そして、持ち歩くこともできます。」

慶子姉妹はこう語ります。「わたしは読書が大好きというわけではありません。でも、この冊子は読みやすかったです。書いてあることについてじっくり考えると、それが正しいと実感します。この冊子は神様がわたしたちの時代のために用意されたものだと思います。」

その冊子はまさに現代のために用意されました。そして、この世代の青少年たちも、現代のために備えられていたのです。

十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老はこのように語っています。「今まで度々耳にしたことですが、わたしもまた言います。『あなたがたは、選ばれた世代』です。皆さんは21世紀に神の教会と王国をもたらすために主によって育てられてきました。危険と悪が力を振るう時代に、地上に来るよう主によって選ばれてきたのです。ですから、皆さんはその挑戦に打ち勝つことができます。」「(「神権者に成長する」『リアホナ』2000年1月号, 48)

試しに立ち向かうには何が必要なのでしょう。御霊に進んで近づく心、そして、主の勧告に進んで従う心です。■



きたはら ゆうき
北原 由己 兄弟



わたなべ ひかる
渡部 光 兄弟

友人が誘惑してきた場合は どうしたらよいか

あなたがだれを友人として選ぶかは重要です。渡部翔兄弟は次のように言っています。「悪い友人を選ぶと、たくさんの誘惑がついてきます。」

初めて誘惑を断るときが、最も難しいかもしれません。しかし、その後は断りやすくなります。西條順子姉妹は、たばこを勧めてきた友人に「たばこは体に悪いよ」と言いました。「友人はたばこをやめませんでした。それからはわたしに勧めなくなりました。」

断っても効果がないこともあります。時には、その場から立ち去る必要があります。北原由己兄弟はこう語ります。「良くないことを友人が話し始めると、ぼくは話題を変えようとします。もし話をやめないときは、そこから離れます。」

多くの場合、礼儀正しく対処できます。あるとき、西條慶子姉妹の友人がヘッドホンで音楽を聞いていました。「わたしにヘッドホンを渡してきましたが、音楽を聞いて嫌な気分になりました。わたしは『おもしろい曲だけど、わたしには合わないみたい』と言って、ヘッドホンを返しました。」

リカルドは 知っている

R・バル・ジョンソン

教会機関誌

自分のことを
とてもつまらない
人間だと感じ、
神は
自分のような者の
祈りには
関心を持って
くださらない
だろうと
思ったことは
ありませんか。
もし
そうだとしたら、
ブラジルの
ルイス・リカルド・
ダ・シルバの
経験から
何かを得られる
ことでしょうか。

リカルドは友人と一緒にブラジル・サンパウロ神殿にある結び固めの部屋の外に立ちながら、自分たちはどうしてこの部屋に入れないと感じるのか、疑問に思いました。引き止める人はだれもいません。この神殿は再奉獻されようとしており、今はオープンハウスが行われているところなのです。そこで彼らは一緒にいた指導者にどうして入れないと感じるのか尋ねました。しかし、彼もその理由が何なのか答えられませんでした。リカルドたちと同様、入室を思いとどまらせる何かを感じたからです。そこには穏やかながらも、入室を引き止める力がありました。

そのとき、この指導者はあることを思い出しました。そこはゴードン・B・ヒンクレー大管長のために取っておかれている部屋だったのです。ヒンクレー大管長が間もなく入室し、主の宮にあってしばらくの間独りの時間を過ごし、祈りの中で主の平安と靈感を求める部屋だったのです。

リカルドと友人は静かにその場を離れました。

当然のことですが、天の御父は預言者の祈りに耳を傾けられることでしょうか。しかし、わたしたちの祈りはどうでしょうか。ほんとうに神はわたしたちの祈りにも耳を傾けられると思ってしまうのでしょうか。

ルイス・リカルド・ダ・シルバはその質問に答えることができます。ある時期の彼は、自分自身はとてもつまらない人間なので、主は自分のことなど心に留めてはくださらないと思いつ

ていました。「自分のような取るに足りない人間に神が関心を持ってくださるわけがない、と感じていました。でも、今、イエスがわたしを愛しておられることを知っています。主の御霊を感じ、天の御父がわたしの祈りに耳を傾けてくださることを知っています。」

リカルドがそう確信するようになったのは、祈りがこたえられるという経験を幾度もしてきたからです。家や学校、そして教会で、主が自





ブラジル・サンパウロ神殿のオープンハウスである経験をした後、リカルドは思いました。「自分のような取るに足りない人間に神が関心を持ってくださるわけがない。」でも今、彼はこう語っています。「イエスがわたしを愛しておられることを知っています。天の御父がわたしの祈りに耳を傾けてくださることを知っています。」

分の祈りにこたえてくださったときのことを、静かに語ってくれました。例えば、次のような特別な経験をしました。「ある日のこと、神殿で友達と一緒に死者のためのバプテスマを受けていました。わたしたちはフォントわきの更衣室で祈ることにしました。祈っていると、特別な気持ちに包まれました。まるで光が部屋を満たし、だれかがわたしたちとともにおられるようでした。神がほんとうに生きておられることを知ろうといつも祈ってきましたが、それが祈りの答えでした。そのとき感じた気持ちは強烈で、わたしは文字どおり知ったのです。祈りは神聖なものです。」

その日に証^{あかし}を強められたリカルドでしたが、11歳になる前の彼は、証が何なのかさえ知りませんでした。そんなある日、一人の友人が教会に誘ってくれたのです。とても楽しかったので、その後も教会に通い続けました。

残念ながら、母親はリカルドが教会に行くことを快く思っていませんでした。リカルドはバプテスマを受けさせてほしいと頼みましたが、母親は彼を教会に入れたくありません。「でも、宣教師が母と話し、それから母は宣教師に好感

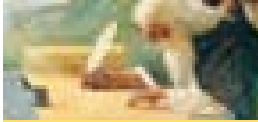
を持ち、最終的には許可してくれました。」

そのとき以来、リカルドは熱心で活気に満ちたキリストの弟子となりました。現在、ブラジル・バルエリステーク、バルエリワードで祭司の職にあります。教会までたどり着くのに2マイル半(約4キロ)もの道のりを歩かなければなりません。ほとんど毎週、教会に一番乗りをします。たとえ日曜日に行われる集会ではなくても、集会にはすべて出席したいと言っています。

家族の中で会員はリカルド一人ですが、それでも、主の王国を建設するためにできることは何でもしています。証を持てば、そうしたくなりますよと、彼は言います。神権会で賛美歌の伴奏ができるようにピアノの練習もしています。

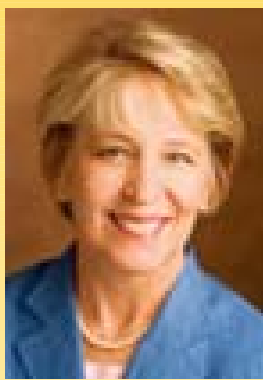
「大切なのは永遠に関係する事柄だけです」と彼は言います。「教会の会員なので、すべてを永遠の観点で見ようとしています。」

主を求める者であればだれにでも天の光は注がれるのでしょうか。自分のことを神の王国で最も小さい者と考えている人にでも注がれるのでしょうか。まさしく、そのとおりなのです。リカルドに尋ねてみてください。彼が知っていますから。■



とこしえに 主に信頼せよ

中央初等協会第一副会長
マーガレット・S・リファース



みたま
御霊の促しを受けるに
ふさわしく生活し、
促しに基づいて
行動するとき、
生活の中で
主の導きの手を
認識することができます。

イザヤは困難な務めを果たすよう召されました。イザヤは、ユダの民のために召された預言者でしたが、当時、この民は背教した生活を送り、その大部分が、邪悪な統治者に従いました。それは貧しい人々が抑圧され、偶像礼拝の風潮が高まり、道徳的な律法が破られた時代でした。そのような中であって、ユダとイスラエルの両王国は、敵対関係にあった周りの国から押し寄せて来る軍隊に立ち向かっていました。

ユダの民に対してイザヤは、悔い改め、来るべきメシヤを信じ、「とこしえに主に信頼せよ、主なる神はとこしえの岩だからである」と勧告しました(イザヤ26:4)。民は、イザヤの言葉に耳を傾けたときには繁栄しました。しかし、イザヤはイスラエルの聖約の家が、天から与えられた勧告を最終的には拒むのを目の当たりにし、悲しみました。靈感に促されたイザヤはイスラエルの滅亡と散乱について預言し、イスラエルの十部族が捕囚となり、ユダの力と繁栄がだんだん終局に向かっていくのを見るまで生き長らえました。

しかし、イザヤは偉大な預言者としての召しの中で、わたしたち、すなわち末日の聖約の民をも目にしたのです。イザヤは、神の王国が再びこの地上に建設されるだけでなく、末日の聖徒が、イスラエルの家に約束された祝福を求め、

またその祝福を受けるにふさわしく生活するということを知り、慰めを受けました。「しかし、……わたしが選んだイスラエルよ、いま聞け。……わたしは、……わが霊をあなたの子らにそそぎ、わが恵みをあなたの子孫に与えるからである。」(イザヤ44:1, 3)

イザヤの言葉は特にわたしたちのために取っておかれたものです。その言葉は聖典のあちこちで引用されています。モルモン書の預言者ヤコブはこう指摘しています。「あなたがたはイスラエルの家の者であるので、イザヤが述べたことの中には、あなたがたにたとえて差し支えないものがたくさんある。」(2ニーファイ6:5) イザヤの教えはわたしたちにどう当てはめることができるのでしょうか。その言葉はわたしたち一人一人にどうたとえられるのでしょうか。

主を求める

イザヤやイザヤの時代の人々と同様、わたしたちも政治的、道徳的な戦場で生活しています。イザヤは当時の聴衆に主に信頼するようにと懇願しましたが、そのとき、わたしたちにも話しかけていたのです。どうすれば主の導きと力、守りを求め、自らの生活に差し伸べられている主の手を認識することができるでしょうか。

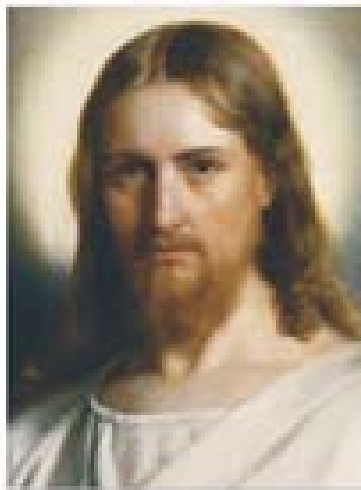
大いなる祝福は、わたしたちが聖約を交わし、守るときに得られるものです。具体的には、バプテスマと確認を受けるときに、聖霊の賜物を授かります。聖約を守り、毎週聖餐を受けてその聖約を更新するときに、「いつも御子の御霊を

受け]られるという約束を受けます(モロナイ4:3;教義と聖約20:77)。主の約束は確かです。御霊の促しを受けるにふさわしく生活し、促しに基づいて行動するとき、生活の中で主の導きの手を認識することができます。

聖文と生ける預言者の導きに加えて、主がわたしたちの生活を導かれる方法が、少なくとも、3つあることにわたしは気づきました。

1. わたしたちは具体的な祈りに対する答えを受けることができます。
2. たとえ特定の導きを求めていなくても、主はしばしばわたしたちの思い、言葉、そして行動に影響をお与えになります。
3. 逆境に直面し、主に見捨てられたと思うときこそ、主は力を授け、わたしたちが人生の大切な教訓を学ぶことができるようにしてくださいます。

突然、「早く学校へ
迎えに行く必要がある」と
はっきり感じました。
子供の気持ちを慰められるよう
主が母親を導いてくださることに、
心から感謝しています。



神聖な導き

祈りによって主に近づき、主の導きを求めることができるのは特権であり、祝福です。わたしたちは人生の様々な状況で主の御心みこころを求めます。例えば、だれといつ結婚するか、どのような教育を受け、どのような職業に就くか、どこに住むのかを決めるとき、また、どのように召しを果たすか、どのように家族の問題に取り組むか、あるいは

どのように隣人や子供を助けるか知りたいと願うとき、あるいは逆境からどのような教訓を学ぶべきか知る必要があるときに、主の導きを求めるのです。



時として、主はわたしたちの祈りに具体的にこたえてくださいます。

しかし、自分にできる最良の判断によって決定するようお任せになることもあります。

ほとんどの場合、このような問題に関するわたしの祈りは具体的にこたえられます。そのほかの場合、自分にできる最良の判断によって決定するよう主はわたしたちにお任せになります。時として、主はわたしのために異なる計画を準備しておられますが、わたしは主から答えを頂いたときには、人生に差し伸べられた主の手を感謝をもって受け入れます。

またわたしは、主が惜しみない御方であり、しばしばわたしたちが導きを求めている事柄についても導いてくださることに気づきました。いつだったか、我が家の子供が中学生のころ、学校の選挙に立候補しました。それは選挙当日のことでした。わたしは家でせつせと家事をこなしていました。突然、「娘が落選したので、早く学校へ迎えに行く必要がある」とはっきり感じました。わたしは時計を見ました。学校に到着したのは、ちょうど選挙の結果が発表される時間でした。正面玄関を歩いて行くと、選挙に立候補した生徒たち全員が、玄関広間に座っていました。ほかの生徒に発表される前に結果を聞いているところでした。娘は、いつもより早い出迎えを感謝しました。翌日になって友達に会う前に、自分の気持ちと優先順位を整理できたからです。わたしは主に感謝しています。主は宇宙を創造されました。そして、その同じ主が、子供の気持ちを慰められるよう母親を導いてくださるのです。

ほかのときにも、特定の導きを求めていなかったのに御霊の促しを感じたことがあります。御霊が前もって警告を与えてくれたこともあります。「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰め」ようとしても、何を言い、何をすればよいのか分からなかったときに、助けられたこともあります(モーサヤ18:9)。レッスンや話をするときに、そこで教えられている真理について確認を与えられたこともあ

りますし、子供たちが疑問を抱いたり、世に従いたいと感じたりしたときに、どう対応すればよいのか導きを与えてくれたこともあります。どのような言葉を口にし、どのような行動をとればよいのかは「その瞬間にあなたがたに授けられる」ということもしばしば経験しました(教義と聖約100:6)。

逆境に直面したときに、主は自分のことを気に留めてくださっているのだろうか、疑問に思うことがあるかもしれません。イザヤはそのようなときでも、主に信頼するようにと教えています。

「たとい主はあなたがたに悩みのパンと苦しみの水を与えられても、あなたの師は再び隠れることはなく、あなたの目はあなたの師を見る。

また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで『これは道だ、これに歩め』という言葉に耳に聞く。」(イザヤ30:20-21)

逆境によって御霊の促しを感じやすくなるのがよくあります。その結果、わたしたちは「主に帰る。主は〔わたしたち〕の願いをいれて、〔わたしたち〕をいやされる」という言葉が実現するのです(イザヤ19:22)。逆境のときに主を信頼することによって、わたしたちは強められ、主の癒しの力を受けることができます。

「わたしたちはその救を喜び楽しむ」

イザヤの教えを自分の生活に当てはめるとき、「とこしえに主に信頼せよ」という勧告に喜びを見いだせることをわたしは知っています。聖約を交わし、守るときに、また御霊の促しに従うときに、主の手はわたしたちの生活を導き、わたしたちは約束された祝福を確かに受けることができます。

「主はとこしえに死を滅ぼし、主なる神はすべての顔から涙をぬぐ〔ってくださる〕。

その日、人は言う、『見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる。これは主である。わたしたちは彼を待ち望んだ。わたしたちはその救を喜び楽しむ』と。」(イザヤ25:8-9) ■

一人一人の姉妹に仕え、支える



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

扶助協会に所属する祝福——扶助協会では、個々の置かれている状況にかかわらず、自分が必要な存在であり、扶助協会の一員であって、尊重されており、また愛されていると感じられるように姉妹たちを助けます。扶助協会の姉妹たちは信仰や友情、愛をもって交わり、支え合います。

尊重され、愛されていると感じるうえで、扶助協会はどのような助けになりますか。

モーサヤ18:21——「彼は……愛し合って結ばれた心を持ち、……一つの目で将来を見詰めるようにと指示した。」

中央扶助協会会長 ポニー・D・パーキン——「互いを心に留めるなら、愛や忍耐、親切、寛容、献身という神のような特質によって、訪問を受ける人の心は満たされ、また訪問するわたしたちの心も広がります。主の用向きを受けて歩みを進める信仰篤い姉妹が世界中に大勢います。単純でありながら重要な奉仕の業を行っているのです。」(“Visiting Teaching: The Heart and Soul of Relief Society” [2003年秋のオープンハウスでの説教])

中央扶助協会第一副会長 キャスリーン・H・ヒューズ——「主の愛が感じられないという姉妹の言葉を時々耳にします。しかし、思いやりを示してくれる人の行いの中に主の御手を見いだそうとするなら、主の愛をもっと身近に感じられるのではないのでしょうか。支部やワードの会員、近所の人、あるいは見知らぬ人からさえも、祝福を受け、キリストの愛を受けているのではないのでしょうか。」(「キリストのような友、これに勝る恵みはない」『リアホナ』2005年5月号, 75)

扶助協会を通して互いに仕え、支えるには、どうすればよいのでしょうか。

1テサロニケ5:11——「だから、あなたがたは、今しているように、互に慰め合い、相互の徳を高めなさい。」

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「姉妹たちが互いに交わりながら、どれほど喜びを生活の中に見いだし

たか、想像できる人がいるのでしょうか。……

慈愛にあふれた行為がどれほど行われてきたか……推し量れる人がいるのでしょうか。何もないテーブルには食物が置かれ、病気を悲観している人は信仰の養いを受け、傷口には包帯が巻かれ、苦しむ人は愛に満ちた助けの手と、静かな励ましの言葉によって慰めを受け、愛する人を亡くし、孤独の中にいる人は、慰めを受けています。

預言者の母ルーシー・マック・スミスは、ノーブーの姉妹たちにこう言いました。『わたしたちは慈しみ合い、見守り合い、慰め合い、導きを得て、わたしたちすべてがともに天で座に着けるようにしなければなりません。』……教会の女性たちは天の座に着く前から、ルーシー・マック・スミスの言う祝福の甘い実を味わってきたことが分かります。この世の人生で互いを大切にし、慰め合い、教え合うことによって、天の喜びを、今、この地上で得ています。」(“Ambitious to Do Good,” Ensign, 1992年3月号, 4-5)

十二使徒定員会会員 ジョセフ・B・ワースリン——「教会は、完全な人たちが理想的な言葉を話し、欠点のない思いや感情を抱く場所ではありません。そこは不完全な人たちが集まり、互いに励まし合い、支え合い、仕え合[う]ところなのです。……わたしたちは……同じ目的を持って世に来ました。それは心と魂と力と力を尽くして御父を愛するようになるためであり、自分を愛するように隣人を愛するためです。」(「思いやりという美德」『リアホナ』2005年5月号, 27-28) ■



主の声を 聞くことを学ぶ

メルキゼデク神権や扶助協会の集會に
正しい姿勢で取り組むなら、
主の声を聞いたという証^{あかし}と、
主の言葉を知っているという証をもって
教會から家路に就くことができるでしょう。

アロン・L・ウェスト
教科課程部

皆さんが長老定員会や大祭司グループ、あるいは扶助協会の集會に出席しているところを想像してください。教師が「わたしたちの時代のための教え」のレッスンを始めようとしているところに、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が部屋に入って来ていすに座りました。

全員が振り向いて預言者を見ましたが、何と言ったらよいのか言葉も出ません。ヒンクレー大管長は沈黙を破ると、少し遅れたことをわび、出席している会員たちに勧告の言葉を述べてもよいか尋ねました。

では想像してみてください。教師はヒンクレー大管長の方に会釈をしてほほえんだだけで、そのままレッスンを続けたのです。その後、何人かの会員が手を上げ、長々と意見を述べ、個人的な経験を話しました。でも、そこに同席している預言者については何も言いません。

40分ほどたち、あなたはもう我慢できなくなりました。あなた

は手を上げました。教師に指されて言いました。「あの、そろそろヒンクレー大管長のお話を伺ってもいいでしょうか。」

教師は時計を見ると、驚いたように言いました。「これは大変。何しろ準備したことがたくさんあったものですから。準備したことを全部伝える時間があつたためしはないようですね。そうですね、これでレッスンを終わりにして、ヒンクレー大管長から少しお話を伺うことにしましょう。」

ヒンクレー大管長が二言三言話し、教師は参加してくれたことを全員に感謝しました。だれかが祈り、皆は部屋を出ました。

もちろんこれは極端な例です。もしヒンクレー大管長が皆さんの長老定員会や大祭司グループ、あるいは扶助協会の集會に出席するようなことがあれば、教師はきっと、大管長に必要なだけ幾らでも時間を割くでしょう。でも、わたしたちがヒンクレー大管長の総大会の説教や、ウィルフォード・ウッドラフ大管長の教えに関し

て話し合うよう割り当てを受けたときはどうでしょうか。預言者の言葉に見合うだけの注意を払っているでしょうか。日曜日のレッスンに備えて、それぞれの説教や章を研究しているでしょうか。末日の預言者の教えを喜んで学ぼうとしているでしょうか。

では、次の事例について考えてみてください。

それから数週間後、また長老定員会（あるいは大祭司グループや扶助協会）の集會に出席しているところを思い浮かべてください。定員会会長が2、3の発表を行い、教師にレッスンを始めるように言いました。教師は前に進み出て言いま



した。「今日のレッスンはウィルフォード・ウッド
ラフの本の17章です。」そして章の1ページ目
を開き、読み始めました。

神殿で受けられる祝福について教師が読んで
いると、あなたの前に座っている人が手を
上げました。数か月前に妻や子供たちとの結
び固めを受けたゴンザレス兄弟です。ゴンザ
レス兄弟は教師に気づいてもらえないまま手
を上げていましたが、とうとうあきらめてしま
いました。教師は読み続けています。

2, 3ページ進んだところで、教師はある一節
を読み始めました。あなたが前夜勉強したと

き、霊的にとても鼓舞された箇所です。あなた
は手を上げましたが、しばらくして下ろしまし
た。あなたの心は、分かち合うことを許されな
かった証で燃えているのに、教師はさらに読み
続けました。

定員会の兄弟たちを見回してみました。何
人かは教師に合わせて読んでいます。それ以
外の人たちは、時々腕時計に目をやりながら、
床を見詰めています。眠気を懸命にこらえて

未 日の預言者の
言葉を教え、
読むとき、
わたしたちは
主の言葉を聞くのです。





時に一人を
語らせて、
すべての者が
彼の言うことに
耳を傾けるように
しなさい。
……すべての者が
互いに教化し合うように
……するためである。」

いる人もいます。手を上げる人はもういません。

教師がその章を全部読み終えたとき、時間はほとんど残っていませんでした。教師は証を述べて、定刻の少し前にレッスンを終えました。だれかが祈り、皆は部屋を出ました。

これも極端な例でしょうか。確かにそうです。ほとんどの教師は定員会やクラスの会員の証や経験を聞きたいと願っているものです。しかし、教える者と学ぶ者がいる教会として、わたしたちは意義ある話し合いをもっと奨励し、自らもっと発言するように努力できるのではないのでしょうか。

教会で教え、学ぶこと

今挙げた例はあり得ないよう見えますし、多少ばかばかしいとさえ思えるかもしれません。しかしこれは、教会で教え、学ぶときに共通する二つの問題をよく表しています。つまり、クラスでよい話し合いをしたいと熱心になるあまり、教会が作成した資料から離れてしまうことが時折起こります。また一方では、作成された教科課程どおりにレッスンを進めようとして、貴重な話し合いを妨げてしまうこともあります。

わたしたちが教える機会を得たとき、どうすれば教会の教科課程に忠実でありながらも、意義ある話し合いを奨励していけるでしょうか。御霊の力によって真理を教え、その同じ力によって真理を受けることを願いながら(教義と聖約50:17-22参照)、この質問についてよく考えてみました。わたしはすべての答えを備えているわけではありませんが、助けとなった二つの聖句を見つけました。

「あなたがたは、わたしの声を聞いた」

主はこう宣言されました。

「これらの言葉は人々から、人間から出ているのではなく、わたしから出ているのである。それゆえ、あなたがたは、これらの言葉がわたしから出ているものであって、人間から出ているものではないことを証しなければならない。

これらの言葉をあなたがたに語っているのは、わたしの声である。これらの言葉は、わたしの御霊によってあなたがたに与えられているからである。そして、わたしの力によって、あなたがたはこれらの言葉を互いに読み合うことができる。わたしの力によらなければ、あなたがたはこれらの言葉を得ることはできない。

そのために、あなたがたは、わたしの声を聞いたこと、そしてわたしの言葉を知っていることを証できるのである。」(教義と聖約18:34-36)

この勧告は教義と聖約の中にある啓示について述べたものですが、メルキゼデク神権者および扶助協会の集会、そして日曜日のすべての集会で行われるレッスンにも当てはまります。末日の預言者の言葉を互いに読むとき、わたしたちは主の言葉を読んでいるのです(教義と聖約1:38参照)。

教えることにも学ぶことにも、正しい姿勢で取り組むなら、わたしたちはだれでも、主の声を聞いたという証をもって教会から家路に就くことができるでしょう。わたしはそう信じています。これは、互いに福音を分かち合うときに、

わたしたちが願っていることではないでしょうか。レッスンは終わったとき、自分の言ったことに驚嘆してほしいとわたしたちは思いません。わたしたちの望みは、皆が主の言葉に喜びを得ることなのです。

「すべての者が互いに教化し合うように」

わたしたちが毎週日曜日に集まるのは、ただ輪読するためではありません。主は次のように教えられました。

「あなたが自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして、全員が同時に語ることなく、一時に一人を語らせて、すべての者が彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは、すべての者が語って、すべての者が互いに教化し合うように、またすべての人が等しい特権を持てるようにするためである。」(教義と聖約88:122)

わたしたちは互いの力を必要としています。そして、その力を分かち合うすばらしい機会を提供するのが、クラスでの話し合いです。レッスンの準備をしていて学んだ真理について教師が証をし、主の手に使われる者として働いている姿を見るとき、わたしはうれしくなります。また、人の証を聞くことでわたしの証は強くなります。だれかが経験を分かち合ってくれるとき、見聞が広がり、高められます。教会において、洞察力に富み、誠実で、信仰を鼓舞してくれるような話し合いに参加できることに心から感謝しています。

読むことと話し合い

教義と聖約の第18章34節から36節、そして第88章122節の両方を一つのレッスンで実践することは可能でしょうか。わたしはできると信じています。ただし、ある一つの簡単なルールに従う必要があります。教義と聖約第18章34節-36節から始めます。まず預言者の教えを読んでください。主の言葉を話し合いの土台として確立するのです。それから、教義と聖約第88章122節の原則に従うことで、その土台の上に築いていきます。

これは取り立てて言う必要もないくらい単純なルールです。しかし、教会で教え学ぶうえで絶大な効果を発揮できます。教える者と学ぶ者がこのルールに従うときの具体的な方法について、教会制作の下記の資料が参考になります。

- 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』序。ここには、個人学習とレッスンの準備に向けた助言が書かれています。この本を基にしてレッスンを準備するうえで、教師が従うべき規範がまとめられています。

- 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』第6章。「御霊によって教え、学ぶ」と題されたこの章には、わたしたちが福音を学ぶために集まるときには何をすべきかについて、靈感に満ちた勧告が記されています。
- 毎回『リアホナ』総大会特集号の巻末近くに掲載される「わたしたちの時代のための教え」への指示。「わたしたちの時代のための教え」のレッスンを準備するための簡単な方法が指示されています。

すべてがうまく運んだとき

もう一つ例を挙げましょう。これは実際に起こったことです。数年前、長老定員会の集会に出席して「家族——世界への宣言」を基にしたレッスンを楽しく受けていたことです。レッスンのある時点で一人の定員会会員が宣言の一部を読みました。教師がレッスンを先に進めようとしたとき、別の会員が手を上げました。「質問があります」とその人は言いました。今読み上げられた箇所を引用して尋ねました。「どうしたら『互いに愛し合い仕え合[う]』ことを子供たちに教えることができるでしょうか。」表情と声の調子から、それが単なる質問ではなく、助けを求める切実な願いであることが分かりました。わたしは彼が質問したことに感謝しました。わたしの心にもあった願いを言ってくれたからです。

心から出たこの質問はレッスンの流れを変えました。教師は計画したレッスンを一時わきに置きました。定員会の会員たちはしばらく考え、何人かが友であるこの兄弟の質問に答えて意見や経験を話しました。その後、教師は自身の考えを伝え、宣言にあるほかの真理に焦点を当ててレッスンを続けました。たった数分間の話し合いでしたが、今でもわたしの家族とわたしに影響を与え続けています。

この定員会の集会では、教義と聖約第18章34節-36節と第88章122節の両方がうまく取り入れられました。その過程では、まず謙遜で賢明な教師が、わたしたちに預言者の言葉を読むように促してくれました。その後、一人の定員会会員が勇気をもって質問、というより、助けを求めたことでレッスンがさらに発展しました。そうして異なる環境にある兄弟たちが一時に一人ずつ話し、「すべての者が互いに教化[され]」ました。わたしは、その日聖霊の力によって主の声を聞いたことを証します。最初に主の預言者を通して、次に隣人や友人を通して聞いたのです。家に帰ったとき、わたしは主の言葉を前の日よりよく知っていました。■



滑落から 奇跡へ

ジャネット・トーマス
教会機関誌

この出来事は世界中でニュースになりました。オーストラリアで働く末日聖徒の宣教師が230フィート(約70メートル)の崖から落ちたものの、生還したのです。それは23階建てのビルの屋上から落ちたようなものです。

奇跡は時折、一文で表せることもありますが、この滑落した宣教師、マシュー・ウェイリッチ長老の場合は違っていました。この出来事の詳細の一つ一つがウェイリッチ長老に次のことを証しているかのように。つまり、主が彼の人生にある計画をお持ちであり、彼はまだそれを成し遂げてはいないということです。

テキサス州フレデリックスバーグ出身のウェイリッチ長老は、オーストラリア・シドニー南伝道部での伝道活動もあと3か月を残すばかりとなっていました。2004年6月のある準備の日に、ウェイリッチ長老とほかの3人の宣教師は、許可を得て地元の公園にオーストラリア特有の動物を見に出かけました。公園からの帰り道、「グランドキャニオン展望台はこちら」という標識を目にしました。そう遠くなかったのに、オーストラリアのグランドキャニオンとはどん



マシュー・ウェイリッチは
オーストラリアで
この崖から落ちましたが、
生還しました。
その後、様々な人に
そのときのことを
話してきました。

な所か見に行くことにしました。ウェイリッチ長老がその日のことで覚えているのはここまでです。数日後、病院で同僚たちにその後何が起こったのか聞かなければなりませんでした。

一行は展望台まで歩き、標識に従って展望台下の洞くつを何か所か見て回りました。道には荒削りの敷石が置かれ、展望台まで続いていました。一人の長老の靴が、緩んだ靴ひものせいで脱げてしまいました。靴は斜面を途中まで転がって行きました。ウェイリッチ長老のいた所から見ると、靴は道から数歩外れた茂みに引っかかっていました。簡単に取れると思ったウェイリッチ長老は、「わたしが取って来ますよ」と言いました。同僚たちはウェイリッチ長老が「靴は取れました」と叫んだのを聞きました。その途端、岩の転がり落ちる音がしたのです。長老たちからはウェイリッチ長老の姿は見えなかったのに、何が起こったのか分かりませんでした。しかし幾ら呼んでも返事がないので、もしかしたら落ちたのかもしれないと不安になりました。



崖下からマットを救助するヘリコプター。マットの指輪(「faith」(信仰)の文字が刻まれている)には、忠実であろうとする彼の心が表れている。右ページ——マットの転落から数週間後、マットと同僚のピーターソン長老、バプテスマを受けたマーカスとメイ・ウォン。オーストラリア・シドニー神殿にてマットと両親

3人の宣教師は身を乗り出して、崖からはるか下をできるだけ遠くまで見渡しました。それから祈りをささげ、警察を呼ぶために携帯電話を持っている人を探しました。駐

車場で車のドアをボタンと閉める音がしたので走り寄ると、今着いたばかりの人がいました。携帯電話を持っていたら貸してほしいと頼み、緊急時の番号000にかけました。

1時間後にレスキュー隊が到着したときには、夕暮れが迫って来ていました。気温が下がる中、人体の熱を感知できるヘリコプターが上空を何度も旋回しましたが、ウェイリッチ長老を発見することはできませんでした。皆の心に、長老を生還させることはもう無理なのかという心配がよぎりました。

しかしそうではありませんでした。

翌日の夜明けとともに捜索隊は崖下を目指しました。そしてウェイリッチ長老を発見したのです。命はあったものの、意識はもうろうとしていました。細心の注意を払って担架に乗せ、ヘリコプターで病院に運びました。そこで待ち受ける医療スタッフは、体中を骨折し、重傷を

負った患者を想定して準備をしていました。しかし、ウェイリッチ長老は脳が少しはれていたものの、骨折は鼻に1か所と目の上に2か所あっただけで、いずれも自然治癒できる程度のものでした。

奇跡の数々

この事故を振り返り、マット(訳注——マシューの愛称)は生還に至った奇跡の数々を挙げてくれました。

伝道に出る前、マットは棒高跳びの選手でした。実際、高校生の全米チャンピオンでしたし、大学には陸上の奨学金で行く予定でした。落下している間何をしたか、マットははっきりとは覚えていませんが、きっとトレーニングを積んできたおかげで、けがが少なくて済むような方法で落ちたのでしょう。

腕のかすり傷や切り傷からして、崖の上部では数か所の岩棚にぶつかったため、落下のスピードが落ちたと思われます。それから最後の90フィート(約27メートル)を何にもぶつからずに落ちたのです。

気温は毎晩零下まで下がっていましたが、彼



**マットは、
今はすっかり
元気で、
ブリガム・
ヤング大学の
棒高跳びの
選手として
毎日
5メートル下の
マットに
着地している。**

が崖の下で過ごした夜は通常よりも10度も高く、零下にはなりません。

彼は下まで落ちてから、少し這って移動しています。それで頭を体よりも低い位置に保てたので、傷口からの出血も抑えることができました。

専門家たちに救助された後、最良の治療を受けることができました。

マットが生還した話はオーストラリア中で大きな話題になりました。急に至る所の人々が、宣教師に話しかけたいと思いました。こうして福音を伝える新たな機会が開かれました。たくさんの人々がこの奇跡がどのようにして起こったのか興味を持ちました。そして神と、この宣教師が代表している教会についてもっと知りたいと思ったのです。

マットはこの経験を通してほかの祝福にも気づきました。このように語っています。「この事件のおかげで、家族のきずなをいっそう強めることができました。また命の尊さを学びました。命とは、ただ毎日生きている以上のものです。それにどんな失敗をしても後で取り返せると思うものですが、命はそういうわけにはいきません。

わたしは『どうして』と聞くのをやめました。今は、『このことから何を学べるだろう』と自問するようになっています。分かって

いるのは、わたしが主の御手に使っていただけたということです。この事件が人にも影響を及ぼすのを見てきました。主にはわたしに達成してほしいと望んでおられることがあるのだと思うようになりました。わたしの行く手に誘惑が迫るときには、罪に落ちるために命を助けられたわけではないことを思い出します。主はわたしたちすべてに対して計画をお持ちであることを、忘れないようにしなければなりません。」

マット・ウェイリッチは伝道を終え、快復して、ブリガム・ヤング大学で学んでいます。そこで棒高跳びの選手として再び陸上部に所属しています。■



輝かしい未来を 選びなさい



七十人
ジョン・H・グローバーク

正しいことをするなら、
物事は
うまくいきます。

人 生で行う最も大きな選択とは、主を信頼するかどうかという選択です。輝かしい未来を手に入れたいなら、今、選択しなければなりません。皆さんは主を信頼しますか、それとも、しませんか。主を信頼するなら、当然主の戒めを守ることでしょう。

皆さんは、人間と主のどちらを信頼するかを選ぶことができます。主を信頼すれば、ずっと幸せになれる。人を信頼しても、結果がどうなるかだれにも分かりません。こんなことわざがあります。「正しいことをするなら、物事はうまくいきます。間違ったことをすれば、失敗します。」そのくらい単純なのです。主を信頼して、主に従ってください。

大きな違い

どのように主に従うのでしょうか。たくさん方法があります。一つの方法を、特に若い兄弟たちに話しましょう。

皆さんには一つの責任があります。それは、神権を授かったときに引き受けた、福音を人に伝えるという責任です。福音を伝えるのに最も良い方法の一つは、伝道に出ることです。さて、伝道に出るためにはしなければならぬことがたくさんあります。什分の一を納めなければなりません。教会に出席しなければなりません。道徳的に清くなければなりません。

あらゆる点でふさわしくなければなりません。準備をしなければなりません。聖文を勉強しなければなりません。しかしわたしは約束します。もし皆さんが自分自身を備え、主の戒めを守り、伝道に出るならば、それは皆さんの人生に大きな違いを生み、また世の中にも大きな違いをもたらします。


伝道では、真理を人に教えるだけでなく、自分でも真理をよく学びます。実際、わたしが永遠の福音の原則を最もよく学んだのは、伝道中のときでした。今でさえ、伝道中を振り返り、当時学んだ教訓に気づくことがあります。

伝道に出てください。準備してください。

さて、若い姉妹の皆さんはこう聞きたいかもしれません。「若い兄弟のことは分かりました。わたしたちについては、どうなのですか？」若い兄弟は伝道に出る責任があります。そして若い姉妹には、その機会があります。皆さんは選択できます。行ってもいいし、行かなくてもいいのです。

わたしたち夫婦には娘が大勢います。そのうちの半分くらいは伝道に行きました。行った娘たちは行ってよかったと思っています。また、行かなかった娘たちもとても満足しています。皆、結婚して自分の家族を持っています。それは皆さんが選ぶことなのです。

しかし若い姉妹の皆さんには、交際する若い兄弟が伝道に熱心で、ふさわしいかどうかを確かめる責任があります。彼らが伝道する気をなくすようなこと、または出る資格を失うよ



帰る前にステーク会長と話していると、彼が言いました。「ある若い兄弟と話をする時間がありますか。とてもよい青年です。前々から伝道に出る計画を立てていました。けれども最近になって行かないと言いだしたのです。わたしたちが話しても、気持ちを変えようとしません。彼と話していただけますか。」わたしは「ぜひ話しましょう」と答えました。

その若い兄弟は信仰篤い教会員として育ちました。しかし、父親の鉱山の仕事が不安定だったことを知っていました。青年は、19歳になる直前から、ある店で仕事を始めました。彼に好印象を持った

うなことをしないでください。また、そのようなことをさせないでください。いつも励ましてください。

ジルの答え

「伝道に出るようにだれかを励ます力なんて、自分にほんとうにあるのだろうか」と思うこともあるでしょう。皆さんには自分が思うより大きな力があります。一つの例を紹介しましょう。数年前、わたしは小さな鉱山の町で行われるステーク大会を管理する責任を割り当てられました。

支配人は言いました。「今、引き受けるなら、支配人補佐にしてやろう。2、3年後には、支配人になってほしい。」

「わたしは伝道に行こうと計画しています」と彼は言いました。

支配人は言いました。「まあ好きなようにすればいいけど、この仕事はできなくなるよ。今すぐ君に来てほしいんだ。」

青年は考えました。彼はジルという姉妹とつきあっていました。そして、こう考えていたのです。「ぼくはジルのことをほんとうに愛している。この仕事に就けば、鉱山で働かなくてもいいだろう。家を買うことができるし、結婚して家庭を築くことができるんだ。」こういうわけで、青年は、このすばらしい機会を手に入れるために伝道に行かないという決意をしたのです。

青年は父親に話し、父親は息子が伝道に行くようにと、できるだけのことをして説得しましたが、息子は気持ちを変えませんでした。父親は息子に、監督のところへ話しに行くよう言いましたが、監督も説得できませんでした。ステーキ会長も説得できませんでした。わたしも話しましたが、説得できませんでした。彼はその店で働くことを固く決意していたのです。

やがて、青年が伝道に行かないことがだれの目にもはっきりしてきました。そのとき、父親が聞きました。「じゃあ、おまえはどうするつもりなんだ。」

「ジルと結婚するよ。」

「ジルは何て言っているんだ。」

「ああ、まだジルには話していないんだ。」

「ジルが結婚してくれるなんて、どうして分かるんだい。」

青年はただ、ジルが結婚してくれるだろうと推測していただけでした。

父親は言いました。「ジルに話した方がいいんじゃないかな。」

こうして青年はジルにこのすばらしい仕事について、また、どれだけ稼げるかについて説明し、最後に言いました。「ねえ、この仕事があったらばくち家を買えるんだ。子供をもうけることもできるし。」

ジルは聞きました。「わたしにプロポーズしているの?」

「うん、そう。そうだと思うけど。」

「伝道はどうなったのよ。」

「さっきも言ったとおり、伝道に行ったらこの仕事には就けないんだ。この仕事があれば、収入もないんだよ。結婚できないし、家も買えなくなる。」

さて、思い出してください。4人の神権者——父親、監督、ステーキ会長、中央幹部——は彼を説得することができませんでした。

ジルは彼を見て言いました。「伝道に出ない人とは結婚しないわ。」

次の日、彼は監督室で伝道に出るための申請書に記入しました。

主が道を備えられる

青年は伝道に出ました。その間にジルはほかの人と結婚しました。しかし青年はすでに確固たる証^{あかし}を築くの^{あかし}に十分な期間、伝道していました。

この長老は、伝道を立派に終えて帰還し、家族にこう言いました。「ぼく、大学に行くことにしたから。」

家族は気絶しそうになりながら言いました。「我が家で大学に行った人なんてだれもないんだよ。どうやって行くつもりなんだい?」

「分からないけど、伝道部長に話したら、『それはいい考えだ。もしそれが正しいことなら主が道を備えてくださる』って言ってくれたよ。」そして主は、実際に道を備えられたのです。彼は賢い青年でした。結局は歯科医になり、すばらしい女性と結婚して、立派な家族を築きました。

さてこの話には後日談があります。青年が親もとを離れて、歯科医として働き始めてから何年もしないうちに、あることが起きました。何が起きたと思いますか。鉱山は閉鎖され、事実上、町は閉ざされました。何年前にそこが閉ざされたあの店も、営業をやめました。続けることができなかったのです。

もし彼が人間の考え、または自分自身の気持ちに従って行動していたらどうなっていたでしょうか。ジルと結婚したかもしれませんが、住宅ローンは払えなかったでしょうし、家も恐らく売れなかったでしょう。

神は、皆さんが戒めを守るなら、いつも皆さんを祝福して下さいます。でももし自分の考えで進むなら、皆さんは世の中に身を任すことになるのです。神の御心^{みこころ}に身をゆだねる方がずっといいのです。確かに、その方がずっといいのです。

正しいことを行うことで、物事はうまくいきます。輝かしい未来を手に入れたいなら、主を信頼して、主の戒めに従ってください。■

2004年6月8日、ソルトレークタバナクルで開かれた青少年デイショナルでの説教。ジョン・H・グローバーク長老は、1976年から2005年まで七十人として奉仕しました。



伝えられるようになる

わ たしたちはたいてい、友達に福音を伝えたいと願っています。ただ、時々その方法が分からないだけです。そこでアイオワ州デモインステーキのセミナーの生徒たちに、アイデアを聞いてみました。というのも、そこの早朝セミナーのクラスには、最近改宗した生徒が一人と、ほかにも二人、教会員ではない生徒がいるので、生徒たちには何かしら経験があるのです。次のような意見が出ました。

祈る。福音に興味があって、聞きたいと思っている人に導かれるように祈ってください。どんな言葉をかけ、何をすればその人にとって助けになるのかが分かるように祈ってください。

まず友達になる。ほんとうの友達であれば、愛する気持ちから福音を伝えようとするでしょう。友達はその気持ちを感じ取り、気を悪くすることはないでしょう。

模範になる。自分で実践していない原則を、友達に受け入れられるように言うのはとても難しいものです。

奉仕をする。救い主は現世で奉仕の人生を送られました。モーサヤの息子たちがレーマン人の改宗者の心をつかんだのも、奉仕によってでした(アルマ17-18章参照)。

友達に心が高められる経験をしてみよう。教会の活動で一緒に時間を過ごしたり、末日聖徒の友達と集まって遊んだりするだけでも、その友達にとっては御霊みたまを感じられる環境に身を置くことになります。

関心を持ち、敬意を払いながら、話を聞く。友達には、話を聞くという役割もあります。自分が話を聞くなら、次に自分が救い主とその教会について感じている気持ちを伝えるときに、相手も同じように関心を持ち、敬意を払ってくれるでしょう。

モルモン書を渡し、証あかしを伝える。好きな聖句に幾つか印を付け、またモロナイ書第10章3節から5節にある約束を伝えてください。

友達に専任宣教師と会うように勧める。宣教師はわたしたちの信条を明確に説明し、友達がどんな質問をしても答えることができます。宣教師が友達を教えるときには一緒に参加してください。

御霊が人の心に触れる力を信じる。どんなにシンプルな証や説明であっても、福音の真理について述べるなら、御霊が証することを忘れないでください。御霊がともにあり、御霊の導きがあるように祈ってください。

友達を信じる。支えとなり、励ましてください。とりわけ今、友達が教会に関心を示さなくても、ずっと友達でいてください。■



ニカラグア

「好ましい実」を渴望する

福音の「好ましい実」を分かち合う
ニカラグアの教会員と宣教師は、
愛する人や友達が平安を見いだす
手助けをしているのです。

ドン・L・サール

教会機関誌

「ニカラグアの時が来た」と確信しています。」こう語るのは、ニカラグアにあるマサヤステーク、サンミゲルワードのラリー・スニガ兄弟です。この言葉は、1年でステークが2つから7つ

に増えるという、自国における教会の発展を指しています。スニガ兄弟が正しければ、ニカラグアの教会歴史にこのような喜びの時が訪れたのには、少なくとも二つの要因があります。つまり、真理を求める人々に聖霊の影響が及んでいることと、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が福音を伝える会員たちを後押ししていることです。神権指導者なら、この二つの要因が人々の生活の中で実際に影響を及ぼすのを目の当たりにしていると話すことでしょう。

マナグアステーク、シウダーサンディノワードのルイス・カストリージョ監督の説明によると、ニカラグアでは多くの人が人生の疑問に対する答えを探し求めていて、その答えを末日聖徒

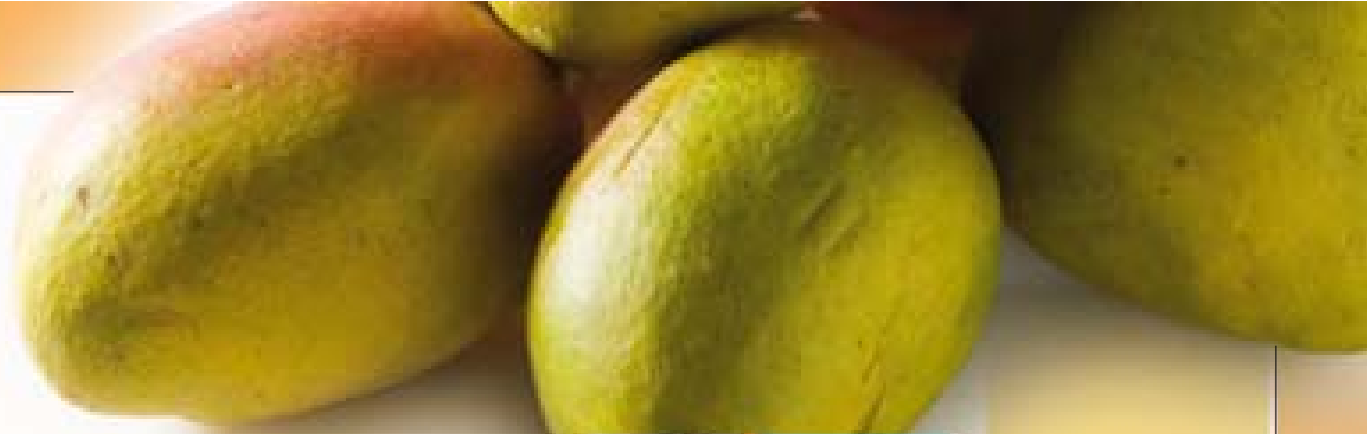


イエス・キリスト教会の教えの中に見いだしています。監督はその状況を、暑い日のどが渴き切っているのに、飲み物を手に入れる場所が見つからないでいるようなものだと言います。そしてついに渴きをいやす方法を見いだすと、イエス・キリストの福音が差し出す水をふんだんに、そして感謝を込めて飲むのです。

中央アメリカ地域会長会の会長であり、七十人であるスベンサー・V・ジョーンズ長老は、ニカラグアで起きている事柄を総合的に見て、その地における教会の発展の理由を3つ挙げています。まず1つ目は、ニカラグア人が「霊的な飢え」を感じていることでしょう。国内に長い間紛争があったために「だれも皆生活に安らぎを求めており、福音の中にその安らぎを見いだしているのです。」2つ目は、「歴代の伝道部長が力強く、地元の指導者や会員たちと見事な協力関係を結んで業を進めてきたことです。基本的に宣教師はあまり戸別訪問をする必要がありません。この協力関係のおかげで、宣教師には教える相手が幾らでもいるのです。」そして3つ目に挙げられるのは、結果として「宣教師の中に、人をバプテスマに導く能力が自分たちにはあるという信仰が、培われてきたことです。宣教師は福音を学んでいる人たちに、バプテスマの準備をするよう勧めることを恐れません。そのような自信と信仰を主に抱いているのです。」

伝道への決意

スニガ兄弟はまさに、伝道を固く決意した末日聖徒と言えま

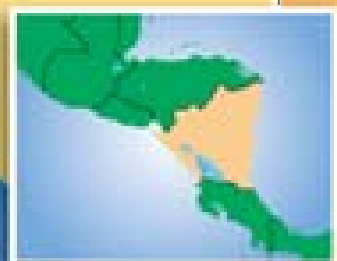


左ページ—マナグアステーキ元扶助協会会長ヘアネス・カンボス・デ・エスピノサ姉妹, マナグアステーキ, シウダーサンディノワードのルイス・カストリージョ監督。
下—ビクトル・バジェシージョ兄弟と息子のビクトル。
右—マナグアのミラフロレスワードの若い女性のクラスを教えるシンディー・オロスコ姉妹。
右下—マナグアステーキセンター。



ニカラグアの教会

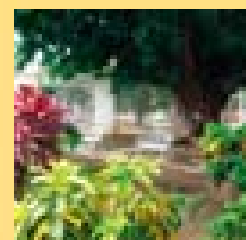
国の人口：
約550万人
マナグア地域：
約140万人
ニカラグアの教会員：
5万2,000人以上
ステーキ：7
地方部：5
ワード：44
支部：41



す。「ここでは進んで手を貸す会員がたくさんいます。」こう語るスニガ兄弟は自身が帰還宣教師で、時間が許すかぎり専任宣教師と伝道に出かけます。これまでにほとんどの友人が、とにかく一度は福音に耳を傾けることに応じてくれました。

ラリー・スニガは子供のころから専任宣教師として伝道に出たいと願っていました。父親は大工で、小さな貯金箱を作ってくれ、ラリーはそ

れに伝道資金をため始めました。けれども18歳になったとき、母親が重い病気にかかりました。彼は伝道資金を使い、自転車を売って母親の治療費に充てました。母親のために喜んで差し出したのです。それにもかかわらずスニガ兄弟は、教会員であるなしを問わずしんせき親戚から受けた援助や教会員の助けのおかげ





上——集会所が改築されている間、賃貸の建物の中庭で集会をする
ミラフロレスワードのメルキゼデク神権者。
右上——チナンデガのパウラ・メルロ姉妹。
右——マナグアのセルヒオ・サエンス兄弟。

で、専任宣教師として伝道に出るのに必要なお金に恵まれました。スニガ兄弟の伝道に対する決意の結果、仲のいい友達が5人教会に入り、そのうちの二人も伝道に出ました。スニガ兄弟はほかにも友人たちに引き続き働きかけています。

チナンデガステーク、アコメワードのパウラ・メルロ姉妹もやはり、伝道の機会をすかさず見つけています。宣教師から会員に、福音を聞く人を探すのを手伝ってくださいという呼びかけがあると、メルロ姉妹は呼びかけに応じます。彼女の家を訪問すると、たいていの場合は、宣教師がそこでだれかを教えています。例えば、ある土曜日には、メルロ姉妹の家で11人が数人ずつに分かれて宣教師から福音を学びました。これもメルロ姉妹が取り計らったものです。

メルロ姉妹は、先にバプテスマを受けていた娘がきっかけで福音を知り、14年前に教会に入りました。パナマには娘が、ホンジュラスには息子が住んでいて、中央アメリカを旅行するときにはいつでも福音を伝えようと努力しています。これまでに一体何人の改宗に手を貸してきたのか、メルロ姉妹自身もはっきり分かっていません。宣教師の話聞くことを断られれば、自宅での家庭の夕べに招待して、その人たちに少しでも福音の精神を感じてもらえるようにしています。

一体どのような理由で、メルロ姉妹は伝道に駆り立てられるのでしょうか。「まず、主から与えられた戒めだからです。そして神殿に入るようになってからは、生者に対してでも死者に対して何もしなければ、主に対して何もしていないのと同じであると気づいたのです。」

メルロ姉妹のステーク会長であるエルネスト・マラビージャ兄弟は、すべての教会員に見習ってほしい模範に、メルロ姉妹を挙げます。マラビージャ会長は、福音を宣べ伝えるのは戒めであり、大切な機会でもあることを会員や宣教師が忘れないよう

に、常に一緒に働いています。模範によって導き、友人や知人を自宅での家庭の夕べに招待して福音を紹介しています。

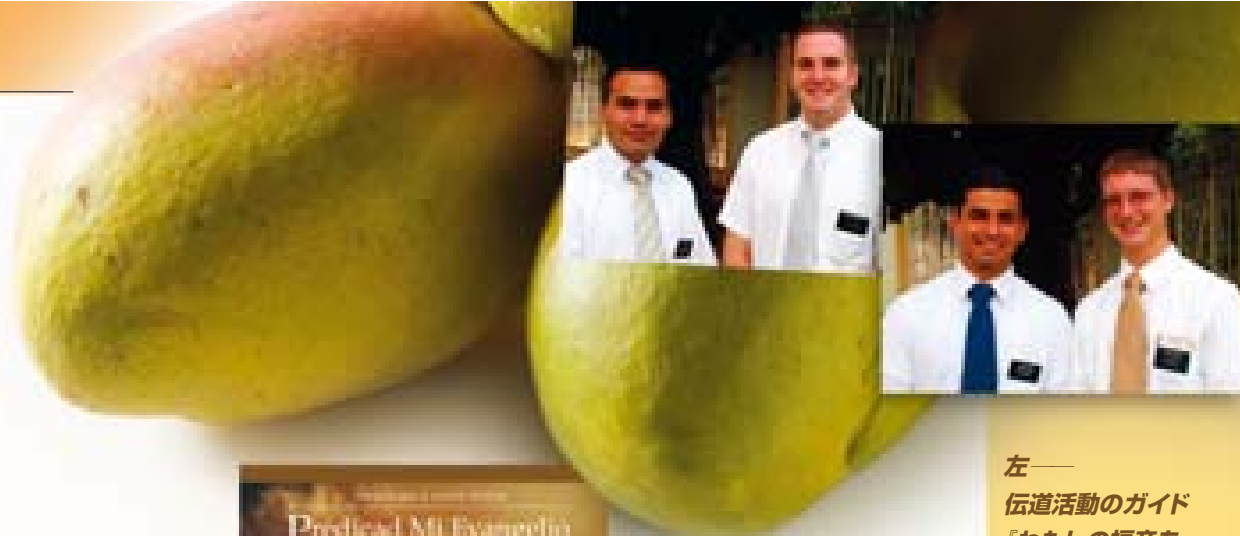
「伝道に関して、わたしには二つの役割があります。一つは伝道を管理することであり、一つは宣教師と同じように働くための動機を会員に与えることです。」彼はこう述べます。

彼の姓の持つ意味(マラビージャmaravillaはスペイン語で「驚嘆すべき人」の意)のために、友人からは、驚嘆すべき伝道者と冗談を言われます。ユーモアあふれるマラビージャ会長はその冗談に笑いを返しますが、伝道に関しては真剣です。巡回宣教師と定期的に集会を持ち、ステーク内の働きを調整します。監督には、ワード評議会を通してワード内の伝道を積極的に指揮し、割り当てが行き渡っていることをよく確認するように、熱心に働いています。評議会は「ワードの伝道活動の中核」であるとステーク会長は言います。評議会が開かれなくなると、伝道の勢いが衰えるのです。「これは経験から学びました。」

チナンデガステークでは^{ひとつき}月に平均45人がバプテスマを受けます。

宣教師の同僚たち

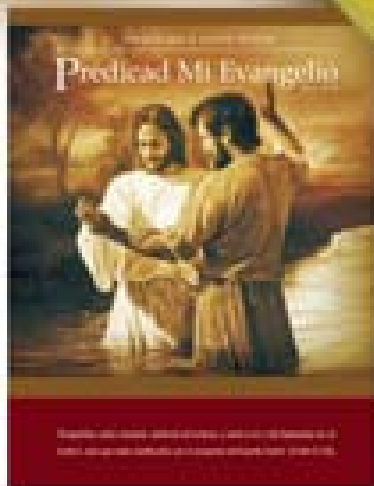
「すべては会員との計画集会から始まります。」こう話すのは、アメリカのテネシー州出身で、ニカラグア・マナグア伝道部で奉仕したウィリアム・J・レオ兄弟です。伝道中は同僚と、その地に住む会員たちと一緒に、毎週集会を開いていました。そして会員たちからは新しく人の紹介を受けるか、紹介してくれそうな人を教わります。レオ兄弟はこう語ります。「紹介の輪というものを作りました。伝道活動の成功の基本



は、この計画にあることが分かりました。」

かつての同僚でコスタリカ出身のロドリゴ・レオン長老は、教えることに成功した理由は、同僚のレオノ長老の経験と、宣教師が現在教える手引きとして活用している『わたしの福音を宣べ伝えなさい』にあると考えています。「その手引きを正しく活用したときに、100パーセントの効果があります。」このレオン長老の言葉に、レオノ長老は、成功が成功を呼ぶと、言葉を添えています。会員はバプテスマを定期的に見ていると、自分の友達にも福音を学ぶチャンスを得てほしいと願うものです。レオン長老はたくさんの会員が毎週、福音を学びたい人を教会の集会に連れて来ると述べています。

ユタ州マーレー出身のジョシュア・キャストラー長老は、伝道活動において自分たちがが必要な存在であると、会員に知ってもらうことが大切だと気づいたと話します。エルサルバドルのサンタアナ出身の同僚ジョナサン・エストラーダ長老とともに、ワードで何があるのか宣教師が関心を持っていることを、指導者や会員に分かってもらおうと努めています。ワードの会員たちと協力し、新しくバプテスマを受けた会員が、ワードに溶け込み、召しを受けられるように助けます。これは新会員にとってもワードにとっても大切な点であると、エストラーダ長老は語ります。奉仕を通して人は神の言葉に養われるものだからです。



リカルド・バジャダレス伝道部長のもとにマナグアで開かれる伝道部大会には、教える人々に対する宣教師の熱意と愛が満ちています。宣教師は、喜びにあふれて指示を受け、伝道の成功談に耳を傾けます。転任の発表があっても「ああ、長老、あそこに行くなんてついてないですね」などと言う人は一人もいません。

互いに祝福し、新たなチャンスについて語り合うのです。

みわざ あかし 御業の証

宣教師の熱意は、会員にも伝わっています。

ビクトル・バジェシージョ兄弟とマナグアステークの会長を務めるペドロ・アピレス兄弟は、職場で一緒に働いています。以前バジェシージョ兄弟は神の真理を探していたのですが、そのときにアピレス会長からモルモン書を渡されました。バジェシージョ兄弟は福音にとっても大きな喜びを感じて2004年11月にバプテスマを受け、以来ずっと、友人に福音を聞くよう勧めることを習慣とし、度々宣教師と教



左——
伝道活動のガイド
『わたしの福音を
宣べ伝えなさい』。

上——ロドリゴ・
レオン長老と
ウィリアム・J・
レオノ長老。

左上——ジョナサン・
エストラーダ長老と
ジョシュア・
キャストラー長老。

下——グラナダの
シルビア・サムリア・
バネガス姉妹。

えに出かけます。バジェシージョ姉妹と二人の子供にも、伝道があります。ある晩のことが、バジェシージョ兄弟の脳裏によみがえります。10代の息子がニカラグアの地図を調べていました。バジェシージョ兄弟が育ったニカラグア北部を眺めながら、地図をあちこち指さして言います。「お父さん、ここに福音はないし、ここにも、ここにも福音はないよ。」いつになれば宣教師が赴いて、その地の人々が福音の祝福と一緒に味わえるようになるのだろうか、バジェシージョ兄弟は考えました。

グラナダ地方部、グラナダ支部のシルビア・サムリア・バネガス姉妹は思い出をこう語っています。「わたしはバプテスマを受けたとき、主に約束しました。見いだしたのからたくさん喜びを頂いたので、いつか自分も人に伝えようと。」バプテスマから4年たった2005年5月、サムリア姉妹はグアテマラに伝道に出ました。けれども実際は、サムリア姉妹は召しを受けるずっと前から友人に福音を伝え、姉妹宣教師と働いていました。サムリア姉妹の好きな言葉は、周りの人を照らせるように明かりをつける人になろうというものです。

レオン地方部、エルコヨラル支部のラウル・ディアス・エルナンデス兄弟は教会員の家庭で育ち、子供のころから伝道に出る準備をしています。宣教師と働き、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の勉強を始めました。だれに対しても証が伝えられるのは特権ですが、義兄を教える宣教師の手助けをするにはもっと個人的な理由があると、エルナンデス兄弟は言います。姉に家族とともに神殿の祝福の喜びを味わってほしいと願っているのです。

会員の及ぼす影響

ホセ・コントラス兄弟はマサヤステークの会長で、ステークの改宗者のバプテスマ数を概算すると、4分の3以上は、福音に喜びを見いだした会員がその喜びを伝えたいと手を差し伸べたことが発端であると言います。さらに、最近の発展にもかかわらず「もっと行動する必要があります。まだ考慮に入れていない人のもとへも、宣教師を連れて行くのです」と述べます。ステーク会長会は、会員が福音を伝える能力を伸ばせるように手助けするだけでなく、会員が宣教師と教えに出かけるときに一緒に出かけることもあります。

コントラス会長は教会に集う会員の割合について、いつもステークの最新情報を手に入れ、福音の祝福を現在味わっ

ていない会員たちを心にかけています。どうすればその人たちに手が届くのでしょうか。会長が好んで使うのは、基本的な方法です。宣教師から教わった分かりやすい教義、つまりキリストの純粋な教義をもう一度教えるという方法です。それを思い出せば、約束された祝福を手にしたくなるのではないだろうか、会長は言います。会員たちが教会にとどまることによって祝福を受けられるように、力を尽くすのです。

マナグアステークの元扶助協会会長であるヘアネス・カンポス・デ・エスピノサ姉妹は、ある訪問教師の工夫に感心しました。訪問を受けた姉妹が教会に集うようになったのです。その姉妹は訪問教師からモルモン書について話を準備してほしいと頼まれ、そのおかげで自分には霊的なものが欠けていたと悟りました。この方法によって、ほかにも教会に集うようになった人がいます。しばしば扶助協会の指導者たちは、小人数で集まって、教会から足が遠のいている会員の家で集会を開くように依頼します。そうして福音の祝福を思い出してもらおうのです。

エスピノサ姉妹は2001年にバプテスマを受け、「ほかの人も好ましい実を味わえるように」福音を伝えたいと強く望んでいます。だから幸福に背を向けてさまよう人々を見ると胸が痛むと、彼女は言います。

ニカラグアでは教会のほとんどの集会のテーマは、人々が「好ましい実」を味わえるように福音を伝えることのようにです。

マナグアステークのアビレス会長は、国内でも初期に召されたステーク会長の一人で、ここ数年間における教会の発展を目の当たりにしてきました。自国は深刻な貧困に悩まされていて、古い伝統と誘惑の力が根強く残っています。しかし伝道活動が盛んになり、より多くの会員が教会に集い続けるにつれて、教会の施設がその発展に追いつかないことも度々あります。アビレス会長には、聖霊と愛にあふれる会員がどのように人々の生活に影響を及ぼしているかが分かっています。

マナグアのあるワード大会で、人々が福音の甘い実を味わえるよう手を差し伸べることについて、アビレス会長は話をしました。信仰があれば、会員たちは行く手に待ち受ける試練や逆境を乗り越えられると述べています。「わたしたちは完全になれるよう、前進しなくてはなりません。

義のうちに強められる必要があります。善を行うことを通して祝福を受けたいと願っています。」そう言い添えました。そして聖徒たちが一致し、それが力となるようにと願っています。こうしてニカラグアは霊的な発展を続けていくのです。■

御存じでしたか？

指導者へのヒント

委任を学ぶのは、指導者にとって大切なことです。イエス・キリストは、参加する機会を弟子に与えるという点で、完全な模範を示されました。主は弟子たちに仕事を分担し、行うべき事柄を具体的に指示し、弟子たちに信頼を置かれました。救い主の模範に

倣^{なら}ってクラスや定員会の会員に委任をするなら、必要な仕事は完了し、一人一人の能力は向上するでしょう。

以下のことを行えば、効果的に委任できます。

- 割り当ての内容を知り、理解する。
- 割り当てを引き受けるよう依頼する。

- 委任した人に、行う方法だけでなく、行う必要のある事柄を話す。
- 終了の期限を決める。
- 割り当てが終了したら、報告を受ける。

聖文研究——どのくらい熱心に行っていますか

あなたは聖文に精通していますか。聖文について、以下のどの段階にありますか。次の質問に答えると分かるでしょう。最後に得点の数え方を見て、合計点を出してください。

1. これから聖文を読み始めるところです。あなたなら最初に何をしますか。

A. 少なくとも10分は読もうと思い、読み始めの時間を確認します。



C. ニーファイ第一書を初めから読み直して、レマンとレムエルは相変わらず不平を言っているのだろうかと思えます。

B. ひざまずいて、読むことが御霊によって理解できるように祈ります。

2. モルモン書を読んでいるときに、あることを行うべきだと感じました。あなたはそのについてどのような決心をしますか。

A. 忘れないように書き留めることにします。聖文日記がこのようなときに役に立つことはよく分かっています。



C. 同じような気持ちをもっと感じられるように、聖文を読む回数を増やそうと思います。でも次の日にはその決心すら忘れてしまいます。

B. 少なくとも1週間は感じたことを一生懸命覚えておくように努力します。

3. 今、学校から帰ってきたところです。疲れているし、宿題もとてもたくさんあります。あなたならこれからどうしますか。

A. 昼寝をして夕食を食べ、それから宿題をして寝ます。



C. 昼寝をして宿題をし、それから夕食を食べ、それからベッドに入ります。聖文は、朝起きたときにすでに読んでいます。

B. まず宿題をして夕食を食べ、翌朝のセミナーのテストのために、マスター聖句を勉強します。

4. だれかがあなたの聖典を手にとって見たとしたら、何と言うと思いますか。

A. おや、真新しい聖典のようだね。どうしてかな。



B. あれ、モーサヤ書にしようがある。今セミナーで勉強しているところは、アルマだよ。

C. 線がたくさん引いてあるし、表紙も傷んでいる。随分使い込んだんだろね。

得点の数え方

- | | | |
|---------|------|------|
| 1. a=2点 | b=3点 | c=1点 |
| 2. a=3点 | b=2点 | c=1点 |
| 3. a=1点 | b=2点 | c=3点 |
| 4. a=1点 | b=2点 | c=3点 |

1-4点 聖文積読者

なるほど、あなたは少なくとも聖典は持っているようですね。今こそ聖典を開いて、キリストの言葉を味わうときです。聖文には学ぶことはたくさんあります。大きな平安を感じることもできます。ちょっと読んでみてください。そうすれば分かるでしょう。

5-8点 聖文探究者

あなたは聖文を読む努力をしています。よく頑張っていますね。でも、まだ行うべきことがあります。まず聖文を読む時間を決め、それから深く研究してください。そして、聖文学習の前に祈ることを忘れないでください。

9-12点 聖文有識者

聖文から学ぶことはとてもたくさんありますが、あなたはその第一歩を見事に踏み出しています。その調子で勉強を続けましょう。これからも必ず毎日聖文を研究し、友達に学んだことを話して、ずっと「聖文有識者」の地位を保ってください。

主は心を見られる

ラケル・ペドラサ・デ・ブロシオ

新しい仕事に就いたわたしは、伝道資金のためようと頑張っていました。そのうちに新入社員も増え、わたしは自分と同じ年ごろの一人の女性を訓練するよう割り当てられました。

マリア(仮名)という新人の同僚は、外見にひどくこだわっているようで、はりのミニスカートををはき、厚化粧に派手な髪形をしていました。また喫煙といった悪い生活習慣にもはまっていた、わたしとは異なるところがいろいろありましたが、仕事上はうまくいっていました。マリアと話すのは楽しく、一緒にいるとあっという間に時間が過ぎていきました。

ある日職場で「ラケル、ダンスに行くことはある？」と聞かれて、わたしは、教会のダンスパーティーには行くと答えました。どこの教会かというので、末日聖徒イエス・キリスト教会で、モルモンと呼ばれることもあると説明しました。すると、聞いたことはあるけれど、信条については何も知らないというのです。教会のことをもっと彼女に伝えられると思うととてもうれしくなって、モルモン書を手渡すと、喜んで受け取ってくれました。

その後、彼女の家からいちばん近い支部に行こうと誘うと、驚いたことに快く承知してくれたのです。そこで次の日曜日に、教会の最寄りの駅で待ち合わせて一緒に教会に行くことにしました。

日曜日に来て、電車が駅に着いたときに、わたしは電車の中か

ら窓越しに、仕事場でいつも見るマリアの姿を探しました。すると何とそこにはつつましいスカートをはき、末日聖徒の若い女性に求められている清楚な髪型と化粧をした女性が立っているではありませんか。でもそれは、紛れもなくマリアでした。

正直なところ、わたしはそこで彼女がわたしを待っているかどうか半信半疑でしたし、彼女の内面や外見が福音によって変わるかどうかいぶかしく思っていました。

あいさつを交わし、歩いて15分の所

にある教会に向かいました。最初に扶助協会の集会に出席したところ、マリアは教師の質問に答えたがり、指示に従ってレッスンに積極的に参加しました。日曜学校も聖餐会も楽しんでいる様子でした。姉妹宣教師に紹介すると、招きにに応じて、二つ返事で話を聞く約束をしたのです。

それから間もなくマリアは仕事を辞め、連絡が途絶えてしまいました。やがてバプテスマの招待状が届きました。ところが残念なことに、わたしがバプテスマ会に出席できなかったことで再び音信不通になってしまいました。

アルゼンチンのメンドサ伝道部で伝道して9か月たったころ、『リアホナ』

待ち合わせを
約束していた
駅に
電車が近づいたとき、
わたしは窓越しに
マリアの姿を
探しました。



電子メールの添付ファイルに、セサレに贈った

モルモン書からスキャンしたあるページの画像がありました。

のローカルページでマリアがアルゼンチンのレシステンシア伝道部で宣教師として奉仕していることを知りました。思わず飛び上がって喜び、早速手紙を書きました。

返事の中でマリアは伝道に出るまでのいきさつを教えてくださいました。教会員になりたいという願いに両親は賛成してくれなかったようですが、マリアは教会の集会やインスティテュートに出席し、伝道に出るためにたくさんの犠牲を払ったというのです。

長い年月がたって、わたしたちは再び巡り会うことができました。マリアは現在アルゼンチンのブエノスアイレス神殿で奉仕者として働き、愛する夫と子供たちと幸せに暮らしています。福音に従って生活している彼女は、周囲に光を輝かし、その外見は現在の彼女の心の中をありのままに写し出しています。彼女は気づいていませんが、彼女はわたしに特別な思い出を作ってくれただけでなく、一つの偉大な原則を教えてくださいました。それは、福音はすべての人のためにあるということです。教会員であるわたしたちは、外見で判断して、この人は自分の話を拒むのではないかと決めつけ、証あかしを伝えるのをしりごみしてはならないのです。

マリアのことを思う度に、サムエル記上第16章7節の次の聖句が心に浮かんできます。「顔かたちや身のたけを見てはならない。……わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」天の御父はその子供たちの心の内を知ありさまっておられます。御父はその心の有様こそ大事と思っておられるのです。■

刈り入れは遅くとも

ライアン・W・ジョーンズ

月曜日の朝、机に向かい、週末にいっぱいになった電子メールに目を通していました。コンピューターウイルスの攻撃を恐れて、知らない人から送られてきたメールは削除する習慣になっていたわたしは、添付ファイルの付いた1通のメールをもう少しで消そうとしていました。でもマウスのボタンの上に置いた指でクリックしようとした瞬間、そのメールを開くようにという御霊の促しを受けたのです。

その電子メールは次のような言葉で始まっていました。「ライアン・ジョーンズ長老、お元気ですか。今50歳前後になっておられるのでしょうか。わたしは37歳です。あなたの顔はほんやりとしか思い出せません。記憶の中であ

なただと思っている人が、ほんとうにあなたなのかどうかも分かりません。」わたしは実際には45歳でした。しかし、わたしのことを「長老」と呼ぶこの人はだれだろう。伝道を終えて以来だけれども「長老」と呼ばれたことはありません。電子メールのメッセージはこう続いていました。「今でも教会に行っておられますか。宣教師時代の心をまだ持っておられますか。」わたしは、この電子メールの差出人が一体だれなのか、ますます知りたくなりました。

「イタリアのタラントであなと同僚から福音を教わった当時、わたしは12歳でした。1975年のことです。」わたしは必死に差出人のことを思い出そうとしました。「あなたはたぶん、バプテスマを施した人を思い出そうとしているかもしれません。残念ですがそうではあ



りません。当時わたしは両親から反対されて、バプテスマを受けることができませんでした。」差出人は、昔、両親からバプテスマの許可を得ようと彼のアパートの玄関先までやって来たわたしと同僚を、兄と二人で押しとどめたときは、とても心苦しく、つらかったと書いていました。それでもしばらくは教会に通い続けたものの、バプテスマを受けられなかったので、教会に行くのをやめた次第をつづっていました。「でもわたしは、福音の教えを心の中に大事に持ち続け、教えてもらった原則に反するようなことは決してしませんでした。」そう続いていました。

わたしは、1975年から1977年までイタリアのローマ伝道部で宣教師として働き、タラントは最初の任地でした。しかし、電子メールにつづられた話は、どうしても思い出せません。メールの差出人は、22歳のときにイタリア北部で兵役に就き、そこで精神的に追い詰められ、成人になって以来初めて祈ってみようと思い立ったのだそうです。そして祈りの答えを受けた彼は、その地域内に宣教師がいなか探したところ、ファーストフード店で宣教師に出会って、バプテスマを受けたいと願い出たとのことでした。「わたしの伝道中には、そんなことは一度もなかった」とわたしは思いました。その場にいた長老たちはさぞかし驚いたことでしょう。

バプテスマを受けた彼は後にドイツのフリードリヒスドルフにある神殿で結婚しました。3人の子供があり、数年後カナダに移り住み、今も教会に集っているとのことでした。

「このメールに返事を下さるかどうかは分かりませんが、もしそうしていたら、わたしの人生に起こったもろもろのことや、あなたの伝道を通

してわたしがどんなに祝福されてきたかをお伝えしたいと思います。長老、ささやかな善い行いから何が起こるか、あなたには想像も及ばないことと思います。」そして結びに「セサレ・クアレント」という差出人の名前が記されていました。後で教えてくれたのですが、彼は、イタリア・ローマ伝道部のウェブサイトでわたしの電子メールアドレスを見つけたのです。

わたしは一生懸命に思い出そうとしましたが、タラントで12歳の少年に福音を教えたことを思い出すことはできませんでした。しかし、電子メールに添付された画像を見たときのことです。それは、差出人が古いモルモン書の1ページをスキャナーで読み込んだものでした。1975年9月14日の日付で、わたしの手書きのイタリア語で次のように記されていました。

「親愛なるセサレ君、

あなたにこの聖典をプレゼントします。読んで、イエス・キリストの福音の美しい真理を見いだしてください。祈りを忘れてはなりません。祈りを通してのみ、真理を見いだすことができるのです。……わたしはこの教会が真の教会であることを知っています。この真理をあなたと分かち合うことができるように願っています。

あなたの友達

ライアン・ジョーンズ長老」

それを讀んだ途端に記憶が鮮やかによみがえりました。自分の書いた文字を見て、当時を思い出したのです。タラントで礼拝堂として使用した貸家のこともはっきりと思い出しました。その建物の中で、当時少年だったセサレに福音を教え、転任する直前にそのモルモン書をプレゼントしたのです。当時のことを思い出し、セサレの電子

メールを讀んで、わたしは喜びでいっぱいになりました。

伝道中に何人かの人にバプテスマを施すことができましたが、残念なことに年月がたつにつれほとんどの人が教会から離れていきました。聖典には次のように記されています。「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:15)■

万分の1の確率

フランシス・デービス

それは2001年6月、ある金曜の夕方5時半のことでした。自宅を事務所にして働いていたわたしのところに1本の電話がかかってきました。妻からの電話で、ひどく動転している様子でした。妻は娘3人と自転車で出かけ、スーパーマーケットに立ち寄って冷たい飲み物とアイスクリームを買ったところでした。外に出てみると、自転車のダイヤル錠が外れなくなったのです。暗証番号の3690を回しても開かず、自転車は店外の金属製のフェンスにしっかりとくくりつけられたままでした。

わたしはすぐさまミニバンに飛び乗り、スーパーマーケットに急行しましたが、何も打つ手がなく、ともかく妻と子供を連れていった家に戻り、解決策を模索しました。第一副支部長がノコギリの修理をしていることを思い出し、電話で窮状を説明したところ、ほとんどの自転車のチェーンロックはとも頑丈で、ノコギリやボルトカッターでは歯が立たないとのことでした。そ

れでもやるだけやってみてはどうかという意見でした。

自宅に電動ノコギリと延長コードの入った箱があったので、すぐに店に電話してコンセントを使わせてもらえるか尋ねると、快く承諾してくれました。店に到着したのは7時45分でした。店は8時に閉店です。切羽詰まったわたしは頭の中が真っ白になりそうでした。

もしチェーンが外れずに自転車を放置すれば、夜間にいたずらされて自転車が壊されるのは目に見えていました。その上、当時車の運転ができなかった妻は、子供たちの学校の送り迎えにその自転車が毎日必要でした。

店に着いたわたしは、電動ノコギリの入ったプラスチックケースをわしづかみにするやふたを開けて中を見ると、何とそこには充電式のドリルが入っているではありませんか。電動ノ

コギリが入っているのと同じ黒のプラスチックケースだったので、間違えて持って来てしまったのです。7時55分、もう家に戻っている暇はありません。あと5分で店は閉まってしまいます。

あらん限りの力で鍵を引っ張って外そうとしましたが、びくともしません。数人がじろじろ見ていました。店員は店を閉める準備を始めています。

車の運転席に座り込んだわたしは、どうすることもできずにイライラしてハンドルを思い切りたたきました。そのとき、「部屋を出る前に」という賛美歌

錠を外そうと
しましたが、
びくとも

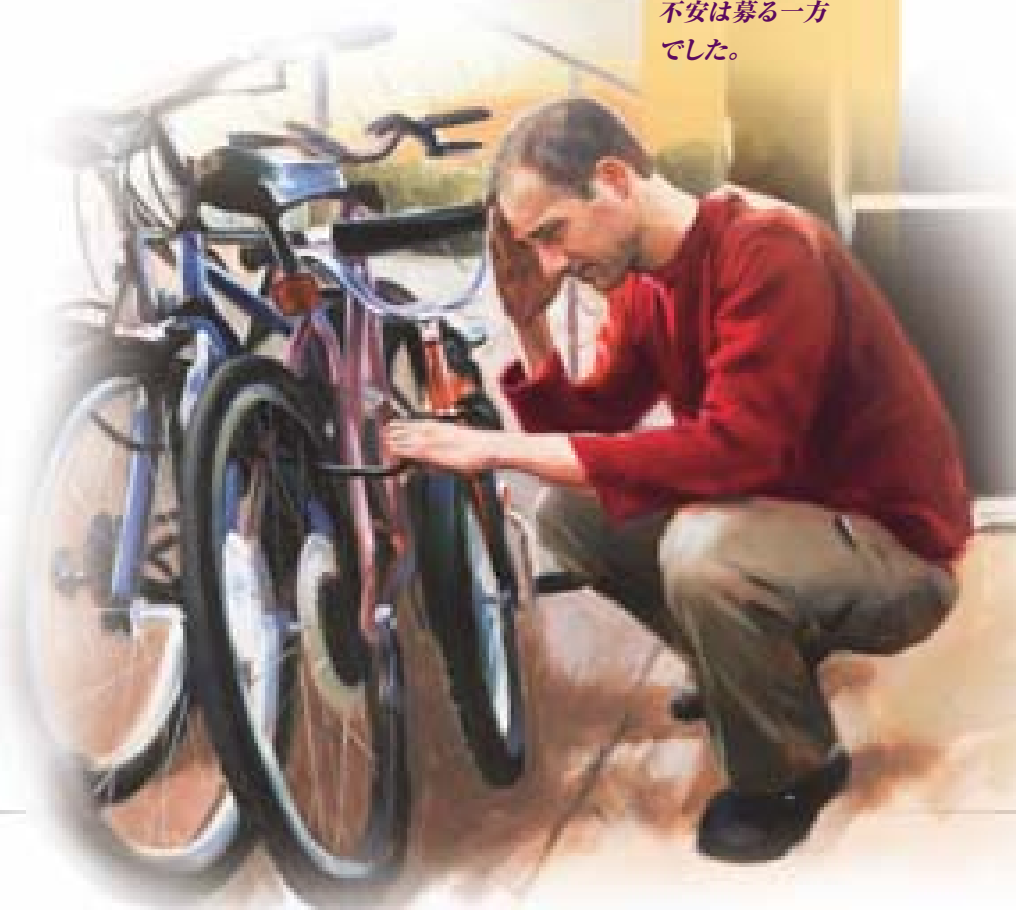
しません。
夜も更けてきて、
不安は募る一方
でした。

を歌う娘の声^ほが、心の耳に聞こえてきたのです(『賛美歌』78番)。

窮地に陥っていたわたしは、最も簡単にできることをしていませんでした。祈ることです。そこで頭を垂れ、追い詰められた状況について何もかもすべて天の御父に話しました。電動ノコギリとドリルの箱を取り違えた自分の愚かさについても打ち明けました。するとそのとき、もう一度錠を開けてみるようにと促されるのを感じたのです。車から出て、もう一度3690と数字を合わせようと思いました。しかしそのとき、わたしの耳に2591とささやく声^ほが聞こえたのです。辺りを見回しましたが、だれもいません。そのとおりにダイヤルを回してみると、どうでしょう、外れたではありませんか。

後にも先にも、あれほどはっきり、あれだけ早く、祈りの答えを受けたことはありません。自転車を車に積み込んでいる間、涙が頬^{ほお}を流れました。わたしは急いで家に帰り、事の顛末^{てんまつ}を家族に話して聞かせました。

後で3690に数字を合わせてみたところ、思っていたとおりに、錠本体の円筒部の内側にある歯が正常に並ばないために、解錠できない状態になっていました。2591を回してみましたが今回はうまくいきませんでした。そこでよく調べてみると内部の歯車が壊れていることが分かりました。つまりその都度違う数字の組み合わせでなければ錠は開かなくなっていたのです。あの夜、何千通りもの組み合わせが考えられる中で、天の助けによってわたしはたった一つの正解に、1回でたどり着いたのです。あのときわたしがすべきことはただ一つ、信仰をもって、御父に祈り求めることだけでした。■



人生のモットー



『リアホナ』2002年7月号で、L・トム・ペリー長老の「神の霊を持つ人になる」が掲載されたことに感謝を述べたいと思います。ウルグアイでの伝道から帰還して間もない

ところで、わたしには霊的な助けが必要でした。この記事は、悩みや誘惑に苦しむわたしへの答えでした。感動を覚え、証が^{あかし}強まりました。そして、神の霊を持つ人になることが、わたしの人生のモットーになりました。

『リアホナ』のおかげで、神の神権を有する者として、霊性が上がっています。

チリ
ルイス・カルババル・アルセ

現代の奇跡

『リアホナ』2005年12月号に掲載された「末日聖徒の声」の記事の一つ「クラムチャウダー物語」を読み、大変感動しました。問題を解決しようと最善を尽くして努力するなら、現代にも奇跡は起きるのだと再認識しました。主はわたしたちの信仰を通して、自分ではできない部分を引き受けてくださるのです。

フィリピン
アイリーン・タニエグラ

いつも感謝したいことがあります

わたしは『リアホナ』が大好きです。どの号も読んだ後で、「ありがとう」と言いたくなります。いつも何かしら、感謝したいことが書かれているからです。

特に2005年の1月号から3月号には感謝しています。1月号の「教義と聖約早見表」と、2月号の「キリストの教会はどうなったか」、3月号の「いざ救いの日を楽しまん」。これらはわたしだけでなく、夫にとっても非常に興味をそそられた記事でした。夫は教会員ではありませんが、歴史に深く関心を寄せており、教会歴史と世界で起きた事柄を並べて書いたこれらの記事を、楽しそうに読んでいました。夫にも読める記事が機関誌の中に見つかり、とてもうれしかったです。

ウクライナ
オルガ・クリーブコ

真実の御言葉

わたしは天の御父に、このすばらしい機関誌を与えてくださったことを、とても感謝しています。わたしはこの機関誌を宣教師にもらいました。知恵に富んだ教えが書かれていて感謝しています。『リアホナ』には真実の御言葉が書かれています。

ブラジル
セリオ・ボルバ

天の御父の教え

いつも『リアホナ』を読むのを楽しみにしています。記事にはとても大切な天の御父の教えが書いてあり、問題があっても立ち止まらないで歩み続ける助けとなっています。霊が強められるので、感謝しています。

グアテマラ
ヘンミー・マサリエゴス

来月号の予告

新会員のための『リアホナ』特別号

10月号では、以下のような質問の答えが見つかります。

●「新会員は教会からどのような助けが得られるのでしょうか。」
ゴードン・B・シンクレイ大管長自身が説明します。

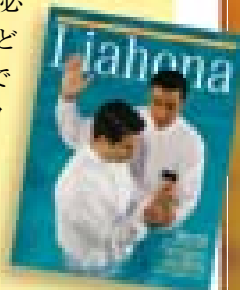
●「今後の生活に必要な霊的な力を、どうすれば養えるのでしょうか。」
ジェフリー・R・ホランド長老の言葉が気に入るでしょう。

●「家族はまだ宗教が同じではありません。家族の心配にどのように対処すればよいのでしょうか。」

●「何か疑問が生じたら、どこでその答えを見つけたらよいでしょうか。」

●教会での生活が長い人も、福音の基本的な教義についての新しい見方に気づき、教会に最近加わった友達や家族のために何かをするときに役に立つ記事が見つかるでしょう。

●『リアホナ』を予約購読していなければ、もちろん配送センターで購入することもできますが、この機会に予約購読をしてみませんか。毎号、特別な発見があることでしょう。





「父リーハイ」 グレン・S・ホプキンソン画

リーハイとサライアは、主がラバンの手から息子たちを解放してくださったことを感謝した。その後リーハイは「真鍮の版しんちゅうばんに刻まれた記録を手に取り……見ると、その中には、世界の創造とわたしたちの最初の先祖であるアダムとエバの話を書いた、モーセの五書があった。……

そして……自分の先祖の系図も見つけ、それで自分がヨセフの子孫であることを知った。
このヨセフとは、……エジプトへ売られ……たあのヨセフである。」(1ニーファイ5:10-11, 14)



「子 供である皆さんに、聞く耳と理解する心を
神が祝福して下さいますように。
母親の皆さんに、尽きることのない愛と、
皆さんの子供たちの父親を助ける力とを
神が祝福して下さいますように。
そして父親の皆さんに、神から力が授けられ、
愛する子供たち一人一人に
父親だからこそできる養いを与えることができますように。
そして、この圧倒されるほどの重責を
まっとうできるように願っています。」

ジェームズ・E・ファウスト副管長「愛してくれる父」2ページ参照